

第二 創業時代より開校十周年まで

(大正末期より昭和九年まで)

一 教育組織

學科課程 大正十三年創立に當つて學科課程が制定された。それは既設高商の學科課程を參考し斟酌して作られたものであつて、當時一般的にさうであつたやうに課目羅列主義を採り授業時數は毎週三十五時間といふ、かなり多い時間を課してゐた。學科目と各學年の毎週教授時數とは次の如くであつた。

學科	目	第一學年		第二學年		第三學年	
		中學出	商業出	中學出	商業出	第一學期	第二學期
修身	漢文	一	一	一	一	一	一
國語	法文	一	三	一	一	一	一
作文	論	三	三	二	二	一	一
商業	通論	三	三	二	二	一	一
貨幣及銀行					三	二	一
外國爲替						二	一
取引所							一
交通論					二	三	一
税關及倉庫						一	一

保險學	三	一	一	一	一	一	一	三
簿記	三	一	一	一	一	一	一	三
英文總記	三	一	一	一	一	一	一	三
會計學	三	一	一	一	一	一	一	三
原價計算	三	一	一	一	一	一	一	三
商業地理	三	一	一	一	一	一	一	三
海外經濟事情	三	一	一	一	一	一	一	三
商品學及實驗	三	一	一	一	一	一	一	三
商業實戰	三	一	一	一	一	一	一	三
經濟原論	三	一	一	一	一	一	一	三
商工心理學	三	一	一	一	一	一	一	三
商業政策	三	一	一	一	一	一	一	三
工業政策	三	一	一	一	一	一	一	三
植民政策	三	一	一	一	一	一	一	三
財政學	三	一	一	一	一	一	一	三
統計學	三	一	一	一	一	一	一	三
法學通論	三	一	一	一	一	一	一	三
民法	三	一	一	一	一	一	一	三
商法	三	一	一	一	一	一	一	三
國際公法	三	一	一	一	一	一	一	三
國際私法	三	一	一	一	一	一	一	三
商事關係法	三	一	一	一	一	一	一	三
國際私法	三	一	一	一	一	一	一	三
英語	三	一	一	一	一	一	一	三
第支那語	三	一	一	一	一	一	一	三

科目	第一學期		第二學期		第三學期		合計	
	時數	備考	時數	備考	時數	備考	時數	備考
英語	三		三		三		九	
獨逸語	三		三		三		九	
佛蘭西語	三		三		三		九	
國語	三		三		三		九	
算術	二		二		二		六	
珠算	二		二		二		六	
理化	二		二		二		六	
工業	二		二		二		六	
商業	二		二		二		六	
世界近世史	二		二		二		六	
研究指導	二	不定時	二	不定時	二	不定時	六	不定時
體操	三		三		三		九	
合計	三五		三五		三五		一〇五	

備考

- 一、本表中授業時數ニ括弧ヲ附シタルハ選擇科目ニシテ第三學年第一學期ニ於テハ植民政策、統計學及商事關係法ノ中二科目四時間ヲ、同第二學期ニ於テハ工業政策、商工心理學及國際私法ノ中二科目四時間ヲ選擇セシム
 - 二、第二外國語ハ支那語、露西亞語、獨逸語、佛蘭西語及英語ニ就キ其一ヲ選擇セシム但シ一旦選擇シタルモノハ中途改廢スルコトヲ許サズ又志望者ナキトキ又ハ學校ノ都合ニ依リ之ヲ缺クコトアルヘシ
 - 三、以上ノ外尙隨意學科目トシテ志望者ニ限リ經濟史、論理學、心理學、哲學概論、教育學、社會學等ヲ履修セシム
- 經濟史ハ第三學年ニ於テ一學年ヲ通ジ、論理學ハ第一學年第二學期、心理學ハ第二學年第一學期、哲學概論ハ第二學年第二學期、教育學ハ第三學年第一學期、社會學ハ第三學年第二學期ニ於テ之ヲ履修ス

學科目の數は、實に四十二の多數で、これでは學生は應接に遑ないであらう。この學科目課程を見ると、英語に八時間が充てられてゐる以外に、第二外國語の中で更に英語を選修し得る點と、基礎學が正科目に勉いのを考慮して隨意科目にこれを取り入れて志望者に履修の道を開いてゐる點等が目立つ。けれども最も顯著な特色は研究指導即ちゼミナル制を創立當初から執つてゐる點であり、兩來學科課程の改正は三度行はれたが、十人内外の少數の生徒を一人の教官が每週一、二時間専門學科の指導をすることともに親しく生徒に接して教養上の相談相手となるといふ、この制度は繼續強化され、教官も亦熱心にこの制度を支持し活用してゐる。昨十七年文部省の方針に則れる高等商業學校學科課程の全面的改正に際して、この制度は「演習」といふ名稱で執り上げられ、各高商に勸奨することになつたのは、師弟近接教育の効果を認めたからにほかならぬ。

創立當時制定の學科課程が羅列主義であつて、基礎學と専門學との間に體系が樹てられてゐない憾みがあり、その合理的整頓は兩來多年の懸案であつたが、六年六月から委員の手で具體案を審議研究の結果成案を得たので十一月教官會議にかけて検討可決して文部省に申請、その認可によつて、七年四月の新學期から實施することとなつた。これが第一次改正である。

改正の主眼とした點は次の如くである。

一、學科の體系的配列 即ち第一學年に於ては基礎課程に意を注ぎ、中學、商業出身者の知識の平均化をより徹底せしめ、第二學年には主として總論を、第三學年に入つて特殊科目を講ずることとした。

二、第三學年は選擇科目を主體とする。即ち約二十の提示科目の中、各自十を選擇せしむ。これによつて教授側の商業經濟課目の負擔は更に過重となるが學生にとつては多大の便宜を蒙るわけである。

三、ゼミナール重要視 第二學年に於て一週一時間のプロゼミナールを設置し、専ら原書講讀に充て、第三學年に於ては之を正課となし一週二時間を割當てること。プロゼミナールからゼミナールへの移動に際しては學生の自由變更を許す建前であつたが、實際上は全く變更なく二ヶ年間を同じ指導教官に屬してゐた。

第一次改正學科課程表 (昭和七年)

必修科目	選擇科目		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語作文書法	(中)三 (商)四	二	二
英語	(中)八 (商)一〇 (中)八 (商)一〇	七	五
英語會話			(中)五
其他ノ外國語	(商)三 (中)四	三	三
高等數學	(中)二	一	一
商業數學	(中)二	一	一
珠算	(中)一	一	(中)一

理化學	(商)二 (中)一	一	一
近世史	(商)三 (中)一	一	一
法學通論	(商)四	一	一
民法	一	一	一
商法	一	一	一
商事關係法	一	一	(中)一
國際法	一	一	(中)一
經濟學原論	二	二	(中)一
景氣論	一	一	(中)一
經濟學史	一	一	(中)一
商業政策	一	一	(中)一
商業史	一	一	一
商業地理	一	一	一
外國經濟事情	一	一	一
財政學	一	一	一
統計學	一	一	一
商業通論	(中)一 (中)一	一	一
商業簿記	(中)四 (中)二	一	一
銀行簿記	(中)二	一	一
工業簿記及算	一	一	一
英文簿記及タイ	一	一	一
會計學	一	一	一

一、第一學年ニ於テ（商）印ヲ付シタルハ商業學校出身者及之ニ準ズル者ニ（中）印ヲ付シタルハ其ノ他ノ者ニ之ヲ

二、選擇學科目ハ第三學年ニ於テ第一期十八時間ノ中八時間ヲ第二學期十九時間ノ中九時間ヲ選修セシム
三、其ノ他ノ外國語ハ支那語獨逸語佛蘭西語西班牙語和蘭語ニツキ其ノ一ヲ選修セシム 但シ一旦選修シタルモノハ半途改廢スルコトヲ許サズ又志望者ナキトキ又ハ學校ノ都合ニ依リ之ヲ缺クコトアルベシ

學年學期 學年は二學期制とし、第一學期は四月一日より十月三十一日まで、第二學期は十一月一日より翌年三月三十一日までとした。隨て試験は學期試験、學年試験各一回宛である。試験の結果學年成績評點三十點以上五十點未滿のもの三科目以内にして、諸學科目總平均六十點以上を得たるものに對しては其の學科目について再試験を施した。この再試験制度も理想通りには行かず却てこれを惡用する懸念さへあつたので後にはこれを廢し現行の如き制度を執ることとなつた。

訓育の方針　本校の生徒心得第一條は生徒の心得べき道を儼として示してゐる。即ち

第一條 生徒ハ校規師訓ヲ遵奉シ左記綱領ヲ確守スベシ

一、徳操ヲ磨キ學業ヲ勵ムベシ

二、心身ヲ鍊リ質實剛健ナルベシ

三、禮節ヲ尚ビ信義ヲ敦フスベシ

この大綱を基礎として訓育し「信頼し得る人物」たらしめんとするのが本校訓育の方針である。學業錬磨には缺席は禁物である。本校は授業時数の三分の一以上を缺席したものは、原則として受験資格を喪失するといふ規程を設けて懈怠的缺席を防止するにとともに（生徒心得第七條）卒業に當り、皆勤者及精勤者には賞状を授與してこれを褒賞し、更に數年後には思想指導費を割いて皆勤、精勤賞を與へることとした。又特待生制度を規定し（規則第二十六條）品性學業、衆の模範とするに足るものを選んで特待生とし、次學年度中授業料を免除し、學業琢磨に拍車をかけさせるとともに優秀生を表彰することとした。一、二學年より進級するに際して毎年各學年それぞれ二人乃至四人の特待生を選んでゐる。

二 創業の完成

全學年完成 第二回入學試験期が巡つて來た。志望者數は一、一四三名で、第一回の時より百二十名ばかり多し。試験地は本校のほか京都、福岡とである。第三回入學志望者は九四七名で前回より二百名ばかり減つた。試験地は本校と京都である。本校以外の土地で試験を施行したのは、志願者を全國的に募集し、各地方の特色を

綜合して學生相互の間に地方的特質を接觸攝取させて、偏らぬ校風を培養せんとする趣旨によつたのであるが、創立四、五年を経過し大體所期の目的を達したことと、本校の存在が全國に滲透して各地から志願者の集る見通しがついたので、昭和三年まで地方に於ける試験をやめた。

第二回は一五四名、第三回は一五一名の入學生を以て入學式を舉行し、かくて一學年から三學年まで全學年が揃ひ、四百五十の元氣のよい優秀な生徒が學園に充滿することとなつた。第三回入學生は入學と同時に現在の白雲の本館で受講したが、第一回生の如きは一年の時は高工の間借で、二年の時は現在の生徒控室で、三年の時に漸く本館に移るといふ風に毎年引越し状態を續けたものだ。

施設漸次整ふ 當時の文相岡田良平氏は大正十四年六月十日來校、本校の状況視察を遂げたが、本館は建築中で、例の假教室や假事務室での状況を具さに巡視されたのである。十五年十二月九日教育勅語謄本を拜戴、昭和三年十月九日、畏くも天皇皇后兩陛下の御眞影を拜戴して、ここに學園の基本が整つた。十五年三月本館竣工翌二年三月體育館、十二月寄宿舎が竣工するといふ風に諸施設は順を追ふて整備し、内容外觀ともに一通り充實したのである。かくて早くも第一回生の卒業期を迎へた。

昭和二年三月十五日に第一回卒業證書授與式を舉げて百十七名の本校最初の卒業生を社會に送り出したのであるが、先輩を持たぬ新卒業生の就職状況こそ、田房校長の最も關心を寄せたところであつて、假令高等の學術技藝を授け教養を深からしめても、これを適所に就かしめて社會的活動をさせなければ、佛造つて魂を入れざるに

等しいとは校長の持論であり、殊に始めての卒業生のことであるからその就職状況如何は微妙に將來に影響するところがあり、校長の苦慮はたしかに大きいものがあつた。

高等専門學校の創設擴張は好況時代の社會的要請に促がされたものであるが、創設擴張計畫の實施當初より既に恐慌續いて不況に見舞はれた社會が果して幾何の新卒業生を求むるであらうか。目出度く卒業はしたが向ふべきところが塞がれてゐては卒業生の歎きは察するに餘りがある。これは當時學校責任者のすべてに共通した悩みであり、それだけに就職運動が激甚を極めたのは當然であらう。

かうした不遇の環境にはあつたけれども、本校の卒業生は比較的恵まれた事情の下にあつた。否、一般狀勢から見れば頗る恵まれた事情にあつたにいへよう。それは偏へに田尻校長の献身的奔走の結果である。田尻校長は長崎高商校長時代から既に「就職の神様」と定評のあつた人で、平生から實業界巨頭要人と廣く交はり知己多く就職戰術は常に備へがあつた。これは實は言ひ易くして實行し難いことであるが、校長のはそれが全く身についてゐて少しも附け焼刃でない。明朗豁達、氣の置けない性格は知己を各方面に多くする。この人徳を以て、しかも義務的事務的にするのではなく全く献身的に就職の斡旋に東奔西走するのであるから、流石の不況時代に拘らず、日本銀行、三井、三菱等巨大銀行會社を始め各方面からの申込員數二百三十一に達し、卒業生中の就職希望者九十五人に對して二・七八倍といふ好況であつた。さうして卒業までに面會或は就職、試験等の難關を突破したものは八十三名、残れる十二名も卒業後間もなく各方面に就職して、不況時代としては幸先きよき出發をなし得た譯である。

かくて創業の大責務は果された。深刻なる不況の世運の間に在つて、入學志望者は年々一千人を前後し收容人員の七倍を數へ、しかも生徒の素質頗る良く、優秀なる人材養成の道場として社會の認承を得、卒業生の就職状況また上述の如くであつたから、次に掲げる内容の整備と好學的活動と相俟つて、爰に創業は完成したといへるであらう。

三 研究調査機關

研究所、調査部創設 經濟學は社會科學といはれる如く、文化科學の中にあつても恒に社會事象と深き關係を持ち、恰も自然科學における實驗の必要なるが如く、實證的研究が必要である。本校教授陣も漸を逐ふて充實して來たから、この研究上の要望が具體化して、十四年匆々岩本教授が創立準備に當り、十月十日の創立委員會によつて研究所規程が確定し、委員及調査部長が創立委員から選ばれた。常務委員古館教授、調査部長岩本教授以下八名の委員が別記の如き研究調査事業を擔當することになつた（研究所規程第三條參照）。

横濱高等商業學校研究所規程（抄）

- 第一條 横濱高等商業學校ニ研究所ヲ置キ横濱高等商業學校研究所ト稱ス
- 第二條 本所ハ商業及經濟ニ關スル調査研究ヲ爲シ學術ノ進歩ト實務ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トナス
- 第三條 本所ハ左ノ事業ヲ行フ

- 一、商業及經濟ニ關スル調査研究
 - 二、調査研究資料ノ蒐集及其ノ整理
 - 三、講習會講演會研究會等ノ開催
 - 四、公刊物ノ發行
 - 五、調査研究ノ獎勵
 - 六、其ノ他本所ノ目的ヲ達スルニ適當ナリト認ムル事業
- 第八條 調査研究ニ關スル事務ヲ行フ爲メ調査部ヲ置ク

この研究所は當初専ら調査部の事業を中心とし、研究所自體としては特別の事業を行はなかつたが、研究所が幹事役となり委員が活動の中核體となつて次の如き研究會を作り逐次發展して、現在の太平洋貿易研究所の開設に誘導したのである。

嗣後會 教官が順次研究のため精讀した著書の紹介と批判を發表し、これを議題として討論する全教官の會合。大正十四年六月第一回例會を教官室に開き、爾後毎月一回開催して十數回に及んだ。

貿易研究會 世界貿易の實證的研究を目的とし、次の如き地域的分擔を定めて毎水曜日順次報告することとし、昭和十二年に入るや直ちに實行した。

德 增 教授——イギリス。	渡 邊 教授——イタリヤ。
井上鑑三教授——ドイツ。	森 田 教授——日 本。
井上龜三教授——アメリカ。	大 竹 教授——フランス。
越村助教授——ロシア。	岡 野 教授——世界貿易。

然るに報告が一巡した頃、森田教授の渡歐、越村助教授の應召のために、兩氏の擔當學科を殘留の教授の間で分擔引受けることとなつて、新しい講義準備に忙殺され、研究報告會を繼續することは加重となつたので、一時會合を中止した。これは十五年に至つて、商學會研究報告會として復活した。これ等一聯の眞摯な研究會合の雰囲気は漸く結實して十五年末の太平洋貿易研究所の開設となつたのであるが、同研究所については後述するところに譲る。

研究所季報發刊 調査部においては、商業經濟の内外各般に亙る調査研究資料を汎く蒐集整理し索引を作成すると同時に、謄寫して受入資料目録及び重要經濟問題の論題目録を毎月各教官に配布してゐたが、積極的に部員の研究乃至調査を資料として提供し同時に本校が未だ研究發表の機關雜誌を持たなかつたその缺を充たさんとして、昭和三年六月研究所委員會を開き、季報發行に決し、十月二十日、研究所季報第一號が發刊された。内容は次の如くである。

季報第一號目次

セリグマン「月賦販賣研究」の紹介
最近英國産業における集中と獨占
内外重要經濟日誌 昭和三年四月—九月
主要受入資料及定期刊行物目録

德 增 教授
井上龜三教授

雜 記

第二號は四年一月、大竹教授の法律と契約の凋落（一）、下田教授の南米經濟に關する二名著を讀みて、の二

つの紹介論文。第三號は同年四月、小宮山教授の聯結貸借對照表に就て、第四號は同年八月、大竹教授の前掲のもの續きと井上鑑三教授のウエイト「消費經濟學」の紹介論文を載せてゐる。季報はこの第四號を以て新に發刊される商學會の雜誌「商學」に包攝されることとなり廢刊した。

商學會の設立と「商學」の發行 研究發表の機關雜誌を持ちたいことは、かねてからの念願であり、教授陣容の充實は十分機關雜誌の内容を豊富になし得る自信があつたが、學校の機關雜誌は大なる市場性を持たないし、當時市場性多しといはれた一、二の大學の有名な機關雜誌さへ收支償はず、財政的行詰りに當惑してゐたことを洩れ聞いてゐたので、機關雜誌發刊には慎重の態度を執つてゐた。然るに卒業生及在學生の間から發刊の要望が起つて來たし、その發行を喜んで引受ける出版番肆同文館の森山誼二氏があつたので、昭和四年春、本校教官と生徒とを以て會員とする商學會を組織し、この組織によつて雜誌「商學」を發刊する運びとなつた。

横濱高等商業學校商學會規則

- 第一條 本會ハ横濱高等商業學校商學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ雜誌「商學」ノ發行ヲ目的トス
- 第三條 本會ハ事務所ヲ横濱高等商業學校内ニ置ク
- 第四條 本會ハ左ノ會員ヲ以テ組織ス
 - 一、特別會員 本校教官
 - 二、普通會員 本校生徒

- 三、贊助會員 本校卒業生ニシテ本會ニ入會スルモノ
- 第五條 本會々員ニハ雜誌「商學」ヲ年二回頒布ス
- 第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一、會長 一名
- 二、幹事 若干名
- 會長ハ會務ヲ總理ス
- 幹事ハ會長ヲ輔ケテ會務ヲ處理ス
- 第七條 會長ハ校長之ニ當リ幹事ハ特別會員中ヨリ會長之ヲ指名ス
- 幹事ノ任期ハ二ケ年トス
- 第八條 會員ハ會費トシテ年額金二圓ヲ納ムルモノトス

會長	校長	田 尻	常 雄
幹事	教授	下 田	禮 佐
同	同	小 山	宮 敬 保
同	同	德 增	榮 太 郎
同	同	大 竹	綠
同	同	井 上	鐵 三

かくて第一號は四年七月十日に發行され、三百二十三頁の堂々たる體裁と次の如き豊富なる内容を盛つて現はれた。

鎖國時代に於ける支那の對歐貿易に就て

聯結貸借對照表に關する問題若干

農家經濟に於ける勞働力の自己搾取

CIF約款 ワルソー・ルール

フールト・ホイットマン論

時 論

最近の金解禁問題

賠償問題と獨逸の經濟

資料及紹介

ミルス氏の物價變動研究

市販柴油の研究

下田 證 佐
小宮山 敬 保
井 上 鑑 三
不二門 龍 觀
西 村 桐

森田 優 三
岡 野 鑑 記

森田 優 三
南 稻 康 博

外郭研究團體 商學の發刊より一足先きに、本邦貿易の太宗たる生糸の經濟學的研究團體が井上鑑三教授を中心とし、本校若手教授と生糸貿易の學究的社員とによつて結成され、二年九月一日その機關雜誌「生糸經濟研究」が創刊された。井上教授は全心を打込んで生糸の經濟的研究に没頭し、帝鑑ビル内に自ら事務所を設け大童の奮闘目覺しきものがあつただけに、不定期ではあるがその後發行された續輯とも學界、實業界の稱賛を瀛ち得た。七年三月の第六輯以後は暫く休刊したが再び十年に至つて井上教授單獨で「生糸經濟研究所彙報」を發行した。これは一、二回で中止したやうだが、この間における同教授の學問的熱意には洵に敬服のほかなかつた。十四年四月忽焉として世を去つたが、春秋に富み且つ眞學な學究として將來を囑望されたのに實に惜しいことを

した。

四 夜學部附設

夜學部の目的 本校は廣く門戸を開放して、晝間實務に従事するものために専門學校程度の、商業上必要なる學術の講習を行はんとして、夜學部の附設を文部省に申請中であつたが、大正十五年四月廿八日附を以て認可されたので、直ちに講習生の募集を行ひ五月十日第一回の講習を開始した。

夜學部の規則は次の如くである。

横濱高等商業學校夜學部規則

第一章 目 的

第一條 本夜學部ハ主トシテ實務ニ従事スル者ノ爲ニ商業上必要ナル學術ノ講習ヲ行フ

第二章 講習期間及學科目

第二條 講習ハ毎年左ノ三期ニ之ヲ行フ

春期講習 四月ヨリ六月迄ノ間ニ於テ五週間

秋期講習 九月ヨリ十二月迄ノ間ニ於テ五週間

冬期講習 一月ヨリ三月迄ノ間ニ於テ五週間

第三條 毎期ノ講習ハ左ノ學科目中三科ニ付之ヲ行フ

商業 通 論 商業 英語 商 品 學
商業 地理 商 工 心理

- 貿易論 海外經濟事情 稅關
倉庫 金庫 銀行 海運 火災保險
外國爲替 取引所 海保 海運
生命保險 海上保險
商業簿記 銀行簿記 工業簿記
英文簿記 會計學 商業數學
貿易實務(英語) 英文商業通信
經濟原論 貨幣論 財政學
商工經營論 統計學 經濟統計
商業政策 工業政策 社會政策
經濟史 法學通論 民法 商法
商事特別法 國際法
右ノ外隨時課外講演ヲ行フコトアルヘシ
- 第四條 前條ノ學科目ハ時宜ニヨリ之ヲ分合スルコトアルヘシ
但シ六期ヲ通シテ十五學科目ヲ下ラサルモノトス
- 第五條 各學科目ノ講習ハ十回(二十時間)ノ授業ヲ以テ完了スルモノトス
但シ都合ニ依リ之ヲ増減スルコトアルヘシ
- 第三章 講習生
- 第六條 講習生ハ每期之ヲ募集ス

第七條 講習生ハ中等學校卒業者又ハ本校ニ於テ適當ト認メタル者ニ限ル

第八條 講習志願者ハ講習願書及履歴書ヲ提出スヘシ

講習ヲ繼續セントスル者ハ講習繼續願書ヲ提出スルコトヲ要ス

第九條 入學ハ願書受付ノ願ニヨリ之ヲ許可ス

但シ講習繼續者ハ右ノ順位ニ依ラスシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十條 講習生ハ一學科目又ハ數學科目ノ講習ヲ受クルコトヲ得

第十一條 不都合ノ行爲アリタル講習生ハ之ヲ除名ス

第四章 講習證明及學力檢定

第十二條 講習補助者ニハ講習證書ヲ授與ス

第十三條 講習證書ヲ有スル者ハ其講習學科目ニ付本校指定ノ期日ニ學力檢定試験ヲ受クルコトヲ得

第十四條 學力檢定試験ニ合格シタル者ニハ檢定合格證書ヲ授與ス

第十五條 十五學科目以上ノ檢定合格證書ヲ有スル者ニハ夜學部講習卒業證書ヲ授與ス

第五章 講習料

第十六條 入學ヲ許可セラレタル者ハ直チニ講習料ヲ納付スヘシ

一旦收納シタル講習料ハ之ヲ返還セス

一學科目一期ニ付 金 參圓

二學科目一期ニ付 金 四圓

三學科目一期ニ付 金 五圓

第十七條 講習料ヲ納付シタル者ニハ講習券ヲ交付ス

講習券ハ講習時間毎ニ之ヲ携帯スヘシ

講習會の經過 教室は小使室傍の元の事務室を充てたので六十名を限つて募集した。男女共學を標榜したが、

講習場が、婦人には極めて不適當なこの山頭にあり、登校路は不氣味に暗いのでおそらく一人も婦人の聴講生はあるまいと想像してゐたが、案外にも第一回四十八名の中には三人の若い熱心な婦人を交へた。

第一回は五月十日から五週間毎日午後六時半から二時間一課目を講習し、三課目各十回を輪講して講了することとした。不二門教授の法學通論、徳増教授の經濟原論（總論及生産論）、古館教授の商業簿記といふ講習科目であつた。五週間と云へば相當長い期間であり、しかも夜間この山へ登つて來るのだから餘程の熱心なものでなければ續かない。幸ひにも殆んど全部の聴講生が最後まで頑張つて好成績を収めて第一回を修了した。第一回聴講生の勤務先別は、官吏一〇、公吏四、銀行員九、會社員二一、小學校教員三、新聞記者一である。

第二回以降の講習開始日は次の如し。

第二回	大正一五、九、一三	第三回	昭和二、一、一七
第四回	昭和二、四、一八	第五回	同 二、九、一九
第六回	同 三、一、二三	第七回	同 三、五、一
第八回	同 三、九、一七	第九回	同 四、一、二一
第十回	同 四、五、六		

一回の講習に三課目宛としたから三十課目に亘り大體高等商業學校の學科目の全般が一通り講了したのである。ところで同が重なるにつれて聴講生の数は減少し第九回は二十五名、第十回は十七名となつた。これでは教授側も張合がなし、學校の負擔も大きくなる。そもそも、この山の上で夜間繼續的講習をするといふのが無理で

あつたから聴講生の減少するのは當然である。かうした經驗から、市内の中心地に適當な會場が得られるまで夜學部は無期閉鎖することとなつた。

五 開 校 式

開校式祝賀日程 弘明寺高工の假校舍から南太田の假教室へ、さうして三年目に漸く本館へ引移るといふ進しい状態だつたが、この間に三學年九學級は完成したので、いよいよ開校の式典を擧げることとなつて準備を進め大正十五年十月二十一日（木曜日）を以て式典の當日と決定、次の如き日程によつて祝賀行事を展開することとなつた。

開校式祝賀日程

十月二十一日（木）	開 校 式
	提 灯 行 列（夜）
十月二十二日（金）	名士學術講演會
十月二十三日（土）	大 運 動 會
十月二十四日（日）	野球、庭球、卓球 柔道、籠球、大會 音樂、大 會（夜）
十月二十五日（月）	校 内 辯 論 大 會

運動各部大會續キ

十月二十六日(火)

語學大會

十月二十七日(水)

學生娛樂大會(夜)

十月三十一日(日)

蹴球大會、剣道大會

自十月二十一日

横濱文化史料展覽會

至十月二十六日

各教室裝飾、寫眞ボスター展覽會

開校祝賀式典 二十一日午前十時から講堂に於て岡田文部大臣臨場の下に盛大な祝賀式典が擧げられた。

開校式次第

大正十五年十月二十一日

午前十時

- 一、開式
- 一、君ヶ代合唱
- 一、工事報告
- 一、學校長式辭
- 一、文部大臣祝辭
- 一、來賓祝辭
- 一、祝電披露
- 一、生徒總代祝辭
- 一、校歌合唱
- 一、閉式

當日は天氣快晴、絶好の開校日和であつた。玄關には裝飾を施し、正門前及裏門にはそれぞれアーチを設け、屋上に國旗及本校徽章入の旗數本を樹て且つ萬國旗を吊し、校内各室には生徒の手に成る各種の裝飾があつた。

式は古館教授の開式挨拶によつて開始、君ヶ代合唱の後、工事報告あり。次で田尻校長の式辭、岡田文部大臣の祝辭及び池田神奈川縣知事、有吉市長、ホルムス英國總領事、佐野商大學長、渡邊名古屋高商校長、東京、横濱商業會議所會頭の祝辭があつた。

式後直ちに饗宴場(三階合併教室)に於て祝宴を催し、宴了つて來賓を自動車にて市内の復興狀況等を案内、三溪園を廻る。尙主なる來賓に對し當日午後五時より市内八百政に市長の招宴があつた。

學 校 長 式 辭

本日本校開校式ヲ舉行スルニ當リ、文部大臣閣下ヲ初メ閣下各位ノ御臨場ヲ辱ウ致シマシテコニ盛大ナル式ヲ擧ゲ得マスルコトハ本校無上ノ光榮トシ、御厚情ニ對シ本校一同ヲ代表シテ厚ク御禮ヲ申上ケマス。又本校創設ニ當リマシテ文部當局ヲ初メ縣市官民各位ノ非常ナル御盡力ト御同情ニ對シ深ク深ク感謝ノ意ヲ表スル次第デアリマス。

此ノ記念スベキ機會ニ於テ簡單ニ本校ノ沿革及抱負ノ一端ヲ述ベテ式辭ト致シタイト思ヒマス。

本校ハ震災直後ニ創設セラレタル學校デアリマシテ大正十三年四月學生ヲ收容シ授業ヲ開始スルニ當リマシテ、本校舎ハ未ダ影ダニ見ルコトガ出來ナカツタメ、漸ク高等工業學校ノバラック建一棟ノ一部ヲ借用シテ授業ヲ開始シタノデアリマス。所謂居候生活ヲナスコト滿一ヶ年ニシテ翌十四年本校敷地ニ移轉シマシタ。然ルニ本館ハ建築ノ最中ニアツテ、漸ク生徒控所及武道々場ヲ仕切り臨時教室トナシ授業ヲ開始シマシタ。教職員全部本館ニ移轉シマシタノハ漸ク本年ノ四月カラデアリマシタ。

以上述べマシタ通り本校ハ震災ニハ遭ハナカッタガ震災ニ遭遇シタルモノト殆ンド同一ノ不自由極マル生活ヲ綴ケマシタ。併シコノ悲惨ナル生活ハ私達ニ大ナル刺激ヲ與ヘ精神ヲ緊張セシメタルコトヲ感謝致シテキル次第デアリマス。

次ニ本校ハ如何ナル主義ヲ目標トシテキルカトイフコトハ短時間ニ之ヲ述ベルコトハ困難デアリマスガ、一言ニシテイヘバ凡テテ信賴シ得ル人物ヲ養成スルコトヲ主眼ト致シテ居リマス。獨立自營タルト他ニ使用セラルルトヲ問ハズ自ラヲ深ク信ズルト共ニ他ヨリ安心シテ全任セラルル人物ヲ養成スルコトヲ期待シテ居ルノデアリマス。カカル人物タルニハ品性高潔、思想穩健ナルト共ニ、進歩的ナ商業社會ノ進運ニ適應スルダケノ智能ト技術トヲ有シ且如何ナル職務ニモ堪ヘ得ル健康ヲ有スルコト等敢テ喋々ヲ要セザル所デアリマス。現時我國ニ於テハ人口ノ増加ト共ニ各學校出身者ハ何レモ其ノ就職難ニ困リ切ツテ居ル有様デアリマス。カクノ如ク人ハ有り餘ツテキルガ、全部ヲ任セ得ル信賴スベキ人物ハ曠天ノ星ノ様デアルトイフコトハ實業界ノ有力者ヨリ常ニ聞クトコロデアリマス。之ヲ例ヘレバチヨウ武蔵野ニ草ハシナジナ多ケレド摘菜ニスレバサテモ少シトイフノト同一デアリマス。本校ハ武蔵野原ニ生ヒ茂ツテキル雜草タラズシテ其ノ摘菜タラシコトヲ期待シテ居ルノデアリマス。

我横濱ハ帝都ノ支關デアツテ文化ノ關門タルト共ニ實ニ我國ノ對外貿易上最モ重要ナル地位ヲ占メテ居ルノデアリマス。我國輸出貿易ノ大宗タル生糸ハ震災後ノ今日ト雖モ尙其ノ八割五分ヲ占メテ居リマス。我國總貿易額ノ三分ノ一ハ實ニ我横濱港ヲ經由スルノデアリマス。本校ガカカル地位ニアル關係上對外貿易或ハ海外發展トイフガ如キ事項ニツイテハ格段ノ注意ヲナシ研究ヲナシテ居ル積リデアリマス。

我横濱ハ過般ノ大震災ノタメ端カラ端マデ谷底ヨリ山ノ頂上ニ至ルマデ悉ク燃エ盡サレマシタ。一木一草ニ至ルマデ燃エ盡サレ殘ルハ灰ト燒ケタル土ダケデアリマス。コノ燃エ盡シタル灰ノ中カラ燒ケタル土ノ中ヨリ何物カヲ生ゼシメナケレバナリマセン。即チココニ燃エ盡ルガ如キ復興ノ精神ガ湧出シタノデアリマス。新ニ生レ變ツタ人物ガ出來タノデアリマス。而シテ何者ト雖モ之ヲ防ギ止スルコトノ出來ナイ緊張セル復興精神ガ市民ノ間ニ熾然トシテ湧出シタノデアリマス。自然ノ力ハ實ニ恐怖スベキモノデアアルガ、マタ人間ノ人モ偉大ナルモノデアアル。吾人ハコノ偉大ナル人力ヲ以テ自然ヲ征服セネバナラナイノデアリマス。今ヤ我横濱ハ震災ニヨリ生レ變ツタ人間ニヨリ緊張セル精神ヲ以テ横濱ノ復興ハ清々トシテ進歩シツアルノデア

リマス。此ノ時ニ當リ、コノ場所即チ不二見ヶ丘ノ高臺ニ於テ本校ガ呱呱ノ聲ヲ上ゲタルコトハ頗ル有意義ナルト共ニ本校ノ大ナル使命ヲ信ジ其ノ責任ノ重且大ナルコトヲ自覺スルモノデアリマス。
感想ノ一端ヲ述ベテ式辭ト致シマス。

文部大臣 祝辭

本日横濱高等商業學校開校ノ式典ヲ舉行スルニ當リ一言慶祝ノ意ヲ表スルコトヲ得ルハ予ノ欣幸トスル所ナリ。
抑々横濱ノ地帝都ノ關門ニ位シ開國以來世界交通ノ衝ニ當リ本邦貿易上最モ重要ナル地位ヲ占メ我國輸出入貿易總額ノ凡三分ノ一ハ實ニ本港ヲ經由ス。

政府ガ大正十二年十二月此地ニ横濱高等商業學校ヲ創設シタルハ實ニ茲ニ觀ル所アリシナリ。次デ十三年四月始めテ生徒ヲ收容シ爾來教職員諸氏ノ協力一致ト官民諸氏ノ後援トニ依リ克ク震災直後ノ困難ニ堪ヘ諸施設ノ完成ト内容ノ充實トニ努メ以テ今日アルヲ見ル邦家ノ爲寔ニ慶賀ニ堪ヘザルナリ。

惟フニ國運ノ隆昌ハ國民ノ經濟的發展ニ俟フ所極メテ大ナルモノアリ國民ノ經濟的發展ハ國民各自ノ自覺ニ依ル而モ世界ノ經濟界益々多事ナラムトスル現下ノ情勢ニ於テ自ラ實業界ニ投ゼムトスル者ハ實ニ商業的才幹ヲ有スルヲ以テ足レリトセズ剛健實實ナル氣風ト高邁ナル人格トヲ兼ネ備ヘザルベカラズ。

本校ハ實ニ國家ノ進運ニ貢獻スベキ模範的實業家ヲ養成シ本邦産業貿易ヲ振興シ又之ニ由リテ横濱ノ復興促進ニ寄與スルノ使命ヲ擔グルモノナルヲ以テ教職員諸君並生徒諸子其ノ責任ノ重且大ナルニ鑑ミ不屈不撓ノ精神ヲ以テ國家ガ本校ニ期待スル所ニ添ハムコトヲ切望シテ止マザルナリ。

終ニ予ハ此機會ニ於テ本校創設ニ際シ多大ノ援助ヲ與ヘラレタル本縣官民諸氏ニ對シ深甚ノ謝意ヲ表シ併セテ本校將來ノ發展ヲ祈ル。一言以テ祝辭トナス。

大正十五年十月二十一日

文部大臣 岡田 良平

東京商科大學長祝辭

四八

横濱高等商業學校新設セラレ諸般ノ設備成テ告ゲ茲ニ本月ヲトシテ開校ノ盛典ヲ舉行セラル吾人同ジク商業教育ノ任ニ膺ル者一層慶賀ノ情ニ堪ヘザルモノアリ。

回顧スレバ横濱ニ於ケル商業教育ハ其起原頗ル遠ク明治十五年故小野金六氏等同市々民二十有餘名ノ發起ヲ以テ創設セラレタル横濱商法學校ヲ以テ濫觴ト爲ス當時本邦ニ於ケル商業學校ハ東京商法講習所及ビ神戸大阪兩商業講習所等アリシガ神戸大阪ノ二講習所ハ内國商業取引ニ必須ナル卑近ノ技術ヲ授クルヲ以テ目的トシ其程度極メテ淺薄ナリシニ反シ横濱商法學校ハ東京商法講習所ト同ジク専ラ外國貿易ニ從事スベキ人材ヲ養成スルヲ以テ目的ト爲シ洋式教育ヲ施シ經濟貿易實務及ビ外國語ニ力ヲ用キタリ然ラバ則チ横濱創立者ノ企圖ハ外國貿易上實際ノ需用ヲ察シテ其教科ヲ擇ミ程度ヲ定メ以テ目的ヲ達成セント期スルニ在リシヤ復タ疑ヲ容レザルナリ爾來本邦經濟ノ發達外國貿易ノ進歩顯著ナルニ伴ヒ東京商法講習所ハ之ニ順應シテ漸次其教課ヲ進メ程度ヲ高メ高等商業學校トナリシニ係ラズ横濱商法學校ハ明治二十一年商業學校通則ニ據リ其第一種學校ヨリ稍高キ中等教育機關トシテ横濱商業學校ト改稱シタルニ過ギズ更ニ征討露ノ兩役ヲ經本邦經濟ニ異常ノ進展ヲ來タシ國光大ニ發揚セラレシ機運ニ際會シ東京高等商業學校ハ益々其程度ヲ高クシ神戸大阪長崎山口小樽ノ各地ニ高等商業學校相繼テ設立セラレ本邦高等商業教育機關漸ク備ヘルニ至リシカ横濱ハ依然中等學校タル横濱商業學校ヲ有セシノミニシテ何等之ニ加フル所アラズ吾人ハ本邦外國貿易上ニ於ケル同港ノ地位歴史並ニ前記横濱商法學校創立ノ趣旨ニ鑑ミ斯ル情態ニ對シ不滿ノ念ナキ能ハズ又横濱市民ノ傍觀シテ何等發策スル所ナキヲ解スル能ハズ夙ニ勇取進取ノ氣象ヲ以テ雄視セル横濱市民ノ意氣何クニ存スルヤヲ疑ハザルヲ得サリキ然ルニ政府ハ疊ニ歐洲大戰後ノ一施設トシテ高等教育機關擴張ヲ計畫シ名古屋彦根和歌山高松大分福島高岡ノ諸市ト共ニ横濱ニモ高等商業學校ヲ新設セラレタリ是レ最モ機宜ニ適シタル措置ニシテ吾人ハ本校ノ設立ニヨリテ横濱ニ當然設置セラルベカリシモノニシテ長ク閑如シタルモノノ設置ヲ見又横濱市民ノ當然有セザルベカラザリシモノヲ新ニ獲タルヲ見欣慰ノ情禁ズル能ハザルト同時ニ其設立時機ノ大ニ後レタルヲ惜マザルヲ得ザルナリ。

然レドモ既往ハ追フベカラズ要ハ將來ニ寄慮スルニ在リ抑々横濱ハ商業教育ニ取リ能ク地利ヲ占メタリト謂フベク教官ノ招聘教材ノ蒐集國際事情ノ觀察生徒ノ募集卒業生ノ就職等他ノ多クノ地方ニ比シテ遙ニ有利ナルハ言ハ俟タズ而カモ當路能ク

其人ヲ得創立以來日向ホ淺キニ拘ラズ已ニ其功績ノ見ルヘキモノ頗ル多キガ故ニ吾人ハ此機ニ當リ文政當局ガ益々本校ノ施設ヲ完備スルニ勉メ横濱市民モ亦之ガ設置ニ報ユル爲メ舊テ本校ノ經營ニ利便ヲ與ヘ其傳統的ノ意氣ヲ發揮シ本校ヲシテ克ク其地ノ利ヲ善用シテ其使命ヲ完フスルニ遺憾ナカラシメシコトヲ冀フト同時ニ本校當路者ニ向ツテハ適切ニシテ穩健ナル教育方針ヲ確立シテ能ク校務ヲ經營シ内ハ以テ質實剛健ノ校風ヲ涵養シ外ハ以テ本邦產業貿易ノ振興ニ貢獻シ又横濱港ノ繁榮ニ寄與シ以テ校運ヲ長ヘニ隆昌ナラシメ天下ノ期待ニ負カサルコトヲ切望シテ已マサルナリ爰ニ願望ヲ省ミズ所感ヲ披瀝シテ以テ祝詞ニ代フト云爾。

大正十五年十月二十一日

東京商科大學長 佐野 善作

工事報告

本日横濱高等商業學校ノ開校式ヲ舉行セラル方リ工事施行ノ願末ヲ報告スルハ小官ノ光榮トスルトコロナリ。
疊ニ政府ハ大正八年度以降ノ繼續事業トシテ高等諸學校ノ増設ヲ企發セラレ就中高等商業學校ハ全國ニ七校ヲ新設シ其一校ヲ横濱市ニ設置スルコトトシ豫算額ハ八十三萬三千百圓ト決定セラレタリ依テ神奈川縣ヨリ五十六萬圓ノ寄附ヲ申請許可セラレ敷地ノ購入及地平均工事ハ之ヲ同縣ニ委任シ其完了ヲ俟ツテ大正十三年四月文部省建築廳横濱出張所ヲ開設シ専ラ工事ノ設計監督ニ從事セリ。

元來本校ノ建築ハ木造ノ計擬ナリシモ震災ノ結果耐震耐火の構造ト爲スベキ必要ヲ認メタルヲ以テ主要建物ハ之ヲ鐵筋混凝土造ニ變更シ其ノ變更ト物價騰貴及土地購入増價等ノタメ實行豫算額ヲ設備費ヲ合セテ百十一萬六千九百九十一圓ト改定セラレタリ而シテ其設計ハ實用ヲ旨トシ裝飾的設計ハ成ルベク之ヲ避ケ指名競争入札ニヨリ購買ニ付シ工事ヲ實行シ寄宿舎雨天體操場等ヲ除ク外ハ既ニ其ノ竣工ヲ告ゲタリ。

買収セシ敷地面積ハ一萬八千二百四十八坪餘ニシテ其ノ購入費十九萬五千四百四圓ヲ要シ此一坪當リ十圓七十餘餘ニシテ地平均ハ一萬二千六百二十七圓ヲ要シタリ又竣工セシ建物ノ總延坪ハ二千二百五坪餘ニシテ今日迄ニ支拂及契約済ノ工費ハ五十七萬六千五百五十五圓餘ニシテ本館鐵筋混凝土建延一坪當工費ハ二百四十二圓餘ニ相當セリ又器具機械圖書類ハ本校ニ於テ之ヲ設

備セリ

本工事着手以來前後三ヶ年ニ互リ何等ノ故障ヲ生セズ其工程ヲ進メ近ク全部ノ完了ヲ告ゲントスルニ至リタルハ閣下並諸君ノ後援ニ倚ルニ外ナラザルコトト深ク感謝ノ意ヲ表シ茲ニ工事施行ノ概要ヲ報告ス

大正十五年十月二十一日

文部大臣官房建築課長

文部技師 柴垣 鼎 太郎

開校記念祭プログラム

十月二十一日(木)

(1) 式 典 午前十時—正午

(2) 東電對本校野球戰 於本校グラウンド 午後二時より

(3) 提灯行列 本校生徒全部 午後六時より

(道順) 本校—初音町停留所—電車道—長島町—吉田橋—馬車道—大江橋—榎木町驛前—辨天橋—本町通り—相生町—公園にて解散

二十二日(金)

名士學術講演會(本校大講堂)

一、爲替市場としての横濱 横濱正金銀行頭取 兒玉 維次氏 午後一時より

一、富の經濟と貧の經濟 法學博士 福田 徳三氏 午前九時より

二十三日(土)

運動會 於本校々庭

個人競技、HCS學年對抗競技、縣下中等學校八百米リレー、市内小學校高等科八百米リレー、同等常科四百米リレー、來賓競争、優勝旗授與

二十四日(日)

(1) 近縣中等學校軟式庭球大會(本校コート)午前八時より參加學

校七十餘校

(2) 硬式模範試合(鴨打、河尻、麻生、八木、相澤) 午後三時より

於本校コート

(3) 一高、横濱高工、早大ラレツシニマン、本校、野球爭覇戰 午前八時より

(4) 近縣中等學校柔道大會 本校道場 午前九時より

神奈川、静岡、千葉、埼玉、東京、山梨、各府縣十八校

(5) 全關東卓球個人大會及女子模範試合 午前九時より

參加者 二百餘名

(6) 縣下中等學校バスケットボール大會 午前九時より

神中、二中、三中、關東學院、本牧中、鎌倉師範

(7) 音樂大會 於本校大講堂 午後六時より

一、合唱 本校音樂部員

一、管絃樂 本校音樂部員

一、序樂祝典 陸軍戸山學校軍樂隊

二、未完成シンフォニー ラタン作

一、合唱 本校音樂部員

一、マンドリン合奏 本校音樂部員

一、合唱 本校音樂部員

一、マンドリン合奏 本校音樂部員

一、管絃樂 陸軍戸山學校軍樂隊

二十五日(月)

- 一、二つの印度舞曲
- 二、木琴獨奏
- 三、スラブノ詩史
- 管絃樂指揮
- 合唱指揮
- マンドリン合奏指揮
- 逸
- 青木 水氏
- 平野 主
- フリードマン作
- デトリツヒ作
- スキルトン作
- (1) 神中對横商野球戰 於本校グラウンド 午前八時より
- (2) 辯論大會 於本校大講堂 午後一時より
- 一、移民か移物か
- 一、婦人労働と家庭賃銀
- 一、國民外交の基調
- 一、帝國の前途と海運
- 一、石油を繞る各國の動き
- 一、最近の支那
- 一、爲替問題考察
- 一、保守主義の一考察
- (3) 巢籠會主催 琴古流尺八演奏會 於本校講堂 午後五時より
- (1) 縣下中等學校英語大會 於本校講堂 午後二時より
- (2) 外語劇及朗讀 於本校大講堂 午後六時より
- (イ) 英語—アブラハム・リンカーン(ドリンクウオーター作)
- (ロ) 同—スレッド・オブ・スカールレット (ベル作)

二十六日(火)

- (ハ) 獨逸語—思ひ出
- (ニ) 佛語—群青
- (ホ) 支那語—歸去來之朗讀
- (マ) 支那語—歸去來之朗讀
- (一) 縣下各クラブ蹴球大會 於本校コート 午前八時より
- 白旗、セント・ジョセフ、横濱サツカー、海兵團、本校各クラブ
- (2) 縣下剣道大會 於本校道場 午前八時より
- 返中、神中、二中、三中、横商、實習、工業、鎌中、鎌師、本牧中、横須賀中

二十一日より二十六日まで

校内開放 室内裝飾
横濱文化史料展覽會
神奈川縣下學生寫眞印畫展覽會
ボスター展覽會

横濱文化史料展覽會 記念式典當日、調査部編纂の「横濱の沿革」なる小冊子を來會者に贈呈し、横濱の今昔概観を示した(内容 一、横濱の開港と發展 二、泰西文物輸入港としての横濱 三、横濱沿革誌略)が、記念行事の一として、調査部主催の横濱文化史料展覽會を開き、横濱市史編纂係その他の資料蒐集家から、古地圖、錦繪、寫眞、古書籍、諸参考品等を借受け、これに調査部所藏の錦繪、關係文献を加へ、出品目録を作つて頒ち

出品點數百三十七を一週間に互り展示し、來會者の多大なる興趣を惹いた。

開校記念論文集刊行 「商學」創刊に先立つこと二年半、季報發行より一年半前の昭和二年三月十日に、開校記念論文集が次の如き内容を以て刊行された(菊版四二五頁)。これは本校の處女出版であり、將來の機關誌刊行の原型となつたものである。卷頭に載せられた田尻校長の發刊の辭はその抱負を語つてゐる。

發刊の辭

本校開校記念事業の一として豫て企圖せられてゐた本校スタッフの商業學經濟學法律學に關する研究論文が上梓刊行せらるるに當つて一言發刊の辭を寄せんとする。

抑々吾々は教育者であると共に學徒でなければならぬ。學生の教導に當ると共に學問研究に眞摯の努力を拂はねばならぬ。而して其研鑽の結果は之を世に發表して江湖の批判を乞ふ事は寔に自己琢磨の道でより兼て學問の向上進歩に資する所以であらう。吾々は夙に創立の際から此志を懷いては居たが創立事業の匆忙の爲めに今日まで其意を果さなかつた。然るに創業の仕事も一期を過し開校式を舉ぐるに際して機會到來し吾々の初志は達せられたのである。

憶ふにスタッフ各自は日頃其專門とする道を邁んで學問的生命をここに捧げ、自己の個性を發揮して學的生活を営んでゐる。然かも各々の聲き出す音色は異なるけれども合しては一の全き旋律を持つ交響樂を完成する如く各自の學問的興味が茲に集成せられて一の論文集となつてこそ學校を中軸とする吾々の協同生活が完きを得るのである。

吾々は今昭和の初頭に無限に擴大し行くべき旋律の交響樂を江湖に向つて奏でんとする。日新の意氣と不斷の創造的努力隨て學界に雄飛すべき礎石は置かれたのである。

目次

原價計算に關する考察若干
徳川時代に於ける堂島米市場

小宮山 敬保
井上 龜三

商品と工業所有權

商工業に於ける人的因素

収益率の理論

ゲョールラントの「奢侈の概念」に就て

チュルゴの思想の一解釋

獨逸の賠償問題

ペルメイの定理と大數法則(ホルトキウィツチ)

獨逸法に於ける物の賣買と契約不履行

英商法の特質と由來とに就て

譯 讀

爲替市場としての横濱

横濱正金銀行頭取

兒玉 證次

開校式當時の概況

一、職員

學 校 長

田 尻 常 雄

教 授

保險學、交通論

國語、漢文、世界近世史

(在外研究中)

(在外研究中)

簿記、原價計算

岩 本 啓 治

栗 林 信 朗

下 田 禮 佐

西 村 稠 桐

古 館 市 太 郎

南 和 康 博

内 山 燈 三

井 上 輝 一

渡 邊 榮 太 郎

徳 増 榮 太 郎

岡 野 鑑 記

森 田 優 三

不 二 門 龍 觀

大 竹 緑

法學通論、民法、商事關係法
 商業作文、書法、商業實踐
 英語
 修身、商工心理學、心理學
 英語
 簿記、會計學
 經濟原論、商業史
 佛蘭西語
 民法、商法、國際法
 商業政策、交通論、商業英語
 商業算術、數學
 配屬將校
 助教授
 體操
 講師
 體操、教練
 珠算
 修身
 商業地理
 商業通論、貨幣論、商工經營

不二門龍
 藤田義雄
 光井武八郎
 內山進
 河村重治郎
 小宮山敬保郎
 德增榮太郎
 時田清
 大竹綠
 渡邊輝一
 小幡孫二
 宮城善助
 陸軍歩兵少佐
 下津屋俊夫
 石川寛
 山崎與右衛門
 友枝高彦
 內田寛一
 井上鎧三
 東京高師教授
 東京高師教授
 東京高師教授

銀行論、外國爲替、統計學
 獨逸語
 商業英語、稅關倉庫
 支那語
 理化學
 商品學、工學
 財政學、工業政策
 備外國人教師

森田優三
 小谷惠一郎
 井上龜三
 武田武雄
 田尻彦幸
 南種康博
 岡野鑑記
 エー・ビー・ラウンズ
 伊藤子之吉
 吉川仲衛門
 齋藤照之助
 矢島熙
 武石彌平
 堤善吉
 湯川和平
 吉居德治
 三田村額夫

英語、商業實踐、英文簿記
 柔道教師
 劍道教師
 書記
 會計課
 庶務課
 教務課
 會計課
 事務囑託
 圖書課
 庶務課
 會計課
 同

三田村額夫
 吉居德治
 湯川和平
 堤善吉
 武石彌平
 矢島熙
 齋藤照之助
 吉川仲衛門
 伊藤子之吉
 エー・ビー・ラウンズ
 森田優三
 小谷惠一郎
 井上龜三
 武田武雄
 田尻彦幸
 南種康博
 岡野鑑記
 エー・ビー・ラウンズ
 伊藤子之吉
 吉川仲衛門
 齋藤照之助
 矢島熙
 武石彌平
 堤善吉
 湯川和平
 吉居德治
 三田村額夫

教務課長 湯川眞藏
 圖書課長 長田兵次
 生徒課長 吉川仲衛
 調査課長 增田彌之助
 運轉課長 山崎職
 守衛課長 植岡金次郎
 會計課長 櫻井巳之吉
 校醫 小川ゆき
 事務分發 久賀六郎

教務課主任 古館市太郎
 生徒課主任 岩本啓治
 庶務課主任 同 藤田錢雄
 會計課主任 同 矢島照之助
 圖書課主任 同 齊藤禮一
 調査課主任 同 渡邊輝
 運轉課主任 同 南種康博
 守衛課主任 同 德増榮太郎
 校醫 同 久賀六郎

職員及傭人表

定員	校長	教授	助教授	書記	講師	國語	英語	算術	理科	衛生	體育	音樂	美術	農業	商業	家政	職業	庶務	會計	圖書	調査	運轉	守衛	校醫	事務分發
現員	一	二	七	六	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
(在外研究中)	一	二	七	六	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	一	二	七	六	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

(大正十五年九月十五日現在)

二、生徒

(大正十五年九月十五日現在)

出身別	第一學年	第二學年	第三學年	計
出 身	一〇一	五八〇	四七四	二六四
中 身	五九	一三九	一二二	一五七
計	一六〇	一三九	一二二	四二一

入學志願者及入學者ノ累年比較表

募集年次	種別			入學志願者			入學者		
	中學	商業	計	中學	商業	計			
大正十三年度	七三八	二九〇	一、〇二八	八四	五〇	一三四			
大正十四年度	七四九	三九四	一、一四三	一〇二	五二	一五四			
大正十五年度	六一一	三三六	九四七	九四	五七	一五一			

生徒原籍調

(大正十五年九月十五日現在)

本籍	生徒数	二	本籍	生徒数	一本籍	生徒数	一本籍	生徒数
北海道	八	八	青森	一	一	徳島	三	三
東北	四〇	二	山形	一	一	愛媛	三	三
東京	一〇	三	秋田	一	一	高知	一	一
京都	八	二	福岡	一	一	福岡	一	一
大阪	七	一	石川	一	一	大分	一	一
神奈川	一三	三	富山	一	一	佐賀	一	一
兵庫	一〇	二	島根	一	一	熊本	一	一
長崎	九	一	根取	一	一	熊本	一	一
新潟	八	一	島根	一	一	宮崎	一	一
埼玉	六	一	山形	一	一	鹿兒島	一	一
群馬	九	一	廣島	一	一	沖繩	一	一
千葉	一〇	二	山口	一	一	五	五	五
茨城	一	一	和歌山	一	一	計	四二	四二

三、研究資料

圖書及雜誌

(大正十五年九月十五日現在)

圖書	冊数	一	雜誌	冊数	一
和漢書	三、一九三冊	一	和漢雜誌	六〇冊	一
洋書	四、四九八冊	一	洋雜誌	六四冊	一
計	七、六九一冊	一	計	一二四冊	一

圖書部保管資料

(大正十五年九月十五日現在)

一、官公署銀行會社諸團體公刊資料マンフレット類.....約六五〇部

二、同上.....定期刊行物.....

(内) 國.....一八〇冊

三、新聞記事切抜.....

(内) 國新聞.....八冊

四、銀行會社考課狀.....

(内) 國.....五八〇社
(外) 國.....一五社

商品標本及機械

(大正十五年九月十五日現在)

種類	別	数	量	價	格
商品	標本	一〇五五	一	五、五〇〇圓	
機械	器具	一〇三〇	一	一九、五〇〇圓	

六 學友會の活動

文化團體 學友會は大正十三年開校匆々結成されたけれども、間借生活の不如意と、百三十ばかりの一年生の少数であつたためにこれといふ活動は出来なかつた。ただ特筆すべきは一年有志の間に國際聯盟協會の學生支部が夙くも結成され、十一月二十二日、本校講堂でその發會式が舉げられ、財務官森賢吾氏の「歐米財政事情」早大教授内ヶ崎作三郎氏の「國家人と國際人との調和」と題する講演があつた。これは學友會の外郭團體ではあつたが、學友會的な活動としてのトップを切つたものであつた。爾來二十年、國際經濟研究會として大きな足跡を残しつつ今日に至るまでこの外郭團體は存続して、國際經濟問題への關心を昂揚してゐるが、日本國際協會(現外政協會)に於ける學生支部としては最古參格である。

この國際經濟研究會は翌十四年一月三十一日に第二回講演會を開催、新渡戸稻造、林毅陸兩博士の講演を、五月廿二日には、第一回國際思想研究講座を開き、外務省の塚本毅氏の講演を聴くといふ如く、文化方面活動の中心をなしてゐた。

學友會講演部は十四年五月三十日その第一回名士講演會を開き、高谷道男氏の「神秘思想の一考案」、堀光龜氏の「太平洋問題」を聴いた。

運動部 十四年に入るや高工野球部との間に定期戦を毎年一回交へようとの議が熟し、開港記念祝賀行事の一つとして、七月二日の開港記念日（後六月二日となる）に決行することとし、第一回定期戦が十四年七月二日、全校應援の下に、新山下町假設グラウンドで行はれた。午後四時開始、七時閉戦といふ記録が残つてゐるが随分長試合だつた。その結果は四A對三で本校が惜敗した。

翌十五年の第二回戦は七月一日新山下町グラウンドに舉行、五對四で本校が勝つた。應援に秘術を盡し、扇子による手拍子、拍手や太鼓で氣勢を上げ、應援戦の觀があつた。兩校應援團の熱狂、兩校フアンの喧騒、遂に横濱名物の一つとなり「濱の早慶戦」と題はれるに至つた。第三回も新山下町グラウンドで昭和二年七月一日に行はれたが、本校は一對〇で惜敗した。第三回は諒闇中であつたから太鼓その他の鳴物入り應援はなかつた。第四回は翌三年七月一日舉行四對三で本校快勝。第四回の決戦場は蒲頭球場（現在大日本航空會社のある場所）であつたが、塵芥焼却場が近くにあり、市中から集められた生の塵芥が近くに積んであつたから眞夏の蠅が風に飛つて大

舉して觀覽席へ飛んで来る。これを追ひ拂ふ扇子が一時に動いて白扇の浪が押し寄せるやうな壯觀を呈する等の景物もあつた。

もとむと定期戦の目的が、兩校の技倆を磨くとともに親睦を圖らうといふにあつたが、兩校とも學校の面目に掛けても勝たうと張切るし、鳴物入りの應援團が背後に控えてゐるし、否應援團同志の競争が展開する。これにそれぞれフアンが彌次の應援をするので、試合が丁つても興奮が醒めず、夜の伊勢佐木町まで延長戦が繰り展げられるといふ有様だつた。電車の中で毎朝毎夕顔を合せる兩校の學生が、敗けた方は當分銷沈して顔も上げられないといふやうな拘泥は甚だ面白くないし、定期戦の逆効果である。このことと、試合を實力本位でやるために三回戦にしたいといふ本校側の主張と一本勝負で行かうといふ高工側の主張が妥協點に達せず、定期戦は此の第四回を以て一時中止することとなり、昭和四年五年の二ケ年は定期戦が見られなくなつた。

第一回陸上運動會が、十四年十一月十五日校庭に開かれた。陸上競技に餘興を織込んだやうな運動會で、前垂掛の店員や墨染の坊さん等に假裝して見物人に混つてゐる學生を、見物人に捜し當てさせる等といふ景物が添へられ面白可笑しく秋の一日を過ぎてさうといふ趣向である。

第二回は翌十五年十月二十三日に開催され、學年對抗で優勝した組及び近縣中等學校、市内小學校の對校リレー競走に優勝旗を渡すこととなつた。

昭和二年七月二十三日駒場帝大グラウンドに於ける全國高專野球大會關東预选赛に、野球部は準決勝戦で再度

高工と對戦し一對〇で惜敗してゐる。明治、慶應各豫科と本校との優勝爭奪戦といふ戦前の下馬評は裏切られた。

體育各部も對高工定期戦にその他對校競技と試合に活躍して部史の初めを飾つてゐる。

下津屋助教の指導で體育研究會が成立し會員三十五名を擁した相談會に發足したのが昭和二年六月二十七日であるが、下津屋氏がその席上語られた大きな抱負は、その後の體研の發展を約束するものの如くである。即ち「獨逸の愛國者がナポレオンの暴虐から脱せんとして奮起し、祖國青年の精神作興は體育の向上にありとして獨逸體操を創始した。又フキンランドの奪取されたのを啖いて憤起せるスウェーデンの熱血詩人によつてスウェーデン體操が發明された。かくて現代世界における體育の二大形式たるドイツ及スウェーデン體操は愛國の士によつて起されたのである。我國の文部省はこれ等諸國の體操の長所を採り入れ我國在來の體育方法をも尊重してここに今日の體育形態が出来た。ただ現今の青年は娛樂とか名譽心とかいふ出發點からは、かなり體育をやつてゐるが、もう少し眞の意味の體育を重視しなければならぬ云々」と。本校の體育は後述する如く全國有數のものであつて早くも文部省の表彰を受けたが、教官のこの抱負、この熱意あればこそで洵に故ありといふべきである。

横濱高商新聞發刊 昭和二年新學期を迎へ第二回生が三學年生となるや、新聞發刊の希望が起つた。「新聞は目下の急務だ。學生相互の親睦も新聞を通してであり、先生と學生との意見の疎通も新聞に依るの効は大である。本校發展のために我々の意のあるところを解せられたい」と發起人の三年生は全學生に呼びかけた。基金の

點で杜撰の點があり、多少の迂餘曲折はあつたが、學友會誌年一回發行を一同として他の一回分の費用を新聞發行に充てることに決定して折合がついた。ただ高商校長會議で新聞發刊禁止の内訓があつた際だつたから校長のところでは難色があつたが、學生の誠意が通じ、自重と責任とを以て發行の事に當る旨を誓はしめて遂に發行が許された。發行兼編輯人は三年坂本四郎君が當り、横濱毎朝新聞社で印刷した第一號は二年六月三十日、新聞半折大八頁で發刊された。一面は發刊の辭と發刊に至る経緯。二面は論說ウィリアムゴドウィンで全紙幅が埋められ、三面は學校の近況で、下田教授歸朝、渡邊教授渡歐が報道されてゐる。四面は文藝欄、五面は迫り來れる第三回對高工定期野球戦への激勵で飾られ、六、七面は學友會各部の活動狀況が載せられてゐる。八面は全面殆んど廣告に充ててゐるがこれは經費捻出の爲めであつたらう。

第四號までは「横濱高商新聞」であつたが、十一月廿五日發行の第五號から校長揮毫の「横濱高商學報」と改題。四年第十四號から四頁新聞大となつた。三年には雜誌部が學報部と改められ學友會誌一回（學友會誌は六年の十月から不二見ヶ丘と改題）、學報年八回發行することとなつた。

その頃の學友會 昭和二年、籠球部が學友會の部として認められ、卓球部が庭球部から獨立し、競技部の内に水泳を含むこととなつた。

翌三年學友會の基礎を確立するため基金として三百圓を積立て爾後毎年之を繼續することとした。四年經費不足を補ふため會費を年額十一圓とした。又御大典記念事業として椎三十七本を校庭に植える。五年度から弓道と

體育研究會に學友會より補助金提出。弓道場が校庭南隅に設置された。弓道部は六年に獨立する。七年ラグビー部、九年排球部が獨立する。運動各部の更衣所が體育館西側に添ひて新設されたのは八年である。

五年對南大専門部との定期綜合競技會を開くことになり優勝旗を作製した。第一回は六月廿九日國立の南大グランドで行はれ、本校側は、野球、柔道、剣道、蹴球の四種目に勝ち、陸上競技、縮球、水泳、弓道の四種目に敗れて同点となり、勝敗の鍵は翌三十日の庭球戦が握ることになったが、果然非常な接戦となり遂に専門部を倒して勝ち、綜合成績九種目中五點を擧げて優勝した。第二回は翌六年六月二十八日本校校庭で展開。本校は九種目中、剣道、柔道、陸上競技、野球、蹴球、水泳に勝ち、縮球、庭球、弓道に敗れたが綜合點六對三で連續優勝した。對一橋専門部定期競技會は僅かに二回で中止し、豪華絢爛たる優勝旗は、兩校學生の手によつて七年、六郷河畔で焼却された。

文化方面では、開校當初から實力を備へた語學部が毎年秋の開校記念行事に外語劇を開いて横濱の人氣を凌つてゐたが、昭和五年十一月二十二日午後五時半から講堂で舉行された外語劇は、先づ西村教授の開會の挨拶に始まり、佛語劇ユーゴーの「ジャン・ヴァルジャン」、英語劇「酒場の夜」支那語劇長與善郎原作「韓信の死」(原作者長與氏が當夜わざわざ觀賞に來られてゐた)、西班牙語の演説、獨逸語劇「アルト ハイデルベルヒ」が上演された。六年は西語劇「罪は若きにあり」獨語劇「ウイリアム テル」佛語劇「アルルの女」英語劇「息子」華語劇「鴻門之會」を上演、毎回學生の熱演に觀衆を魅了し去り盛會を極めつつ最近まで續いてゐる。

七 貿易別科創設

貿易別科創設の事由 不況は人口過剩現象として現はれる。この内地の過剩人口を海外へ移植させ、かねて國威伸展を圖らうとする拓殖計畫が政府によつて執り上げられ、その移植民の現地指導者を養成する教育機關を本校と長崎、山口の三高商に附設することとなり、昭和四年四月、長崎、山口兩校に支那貿易科、本校に南米貿易科が開設された。

この貿易別科は修業年限一ケ年、この短期間に南米移住並に南米貿易に必要な學科を教授し、卒業後は直ちに南米に移住させるか或は南米貿易に従事せしむる方針である。

南米は新興國多く、地域廣大で資源豊富だから將來我國の有望なる輸出市場であり、日本人移住の好適地である。のみならず勞力の不足を補ふために入植者を歓迎してゐたから、政府が南米貿易科を本校に附設したことは商權擴張の點からも人口問題解決の手段としても誠に時宜を得たものであつた。

南米の天地で活動する人材養成といふのだから別科の學科目は自ら異色があり、特に著しい點は、スペイン語(又はポルトガル語)を第一外國語とし、毎週九時間を課し、英、佛語等を第二外國語としたこと及び農業大意と農業實習とが課せられてゐることである。

學科目及每週教授時數

學科目	學期	
	第一學期	第二學期
修身	一	一
商業通論	二	二
簿記	三	三
南米經濟事情	四	四
貿易大意及外國爲替	二	二
貿易實踐	二	二
タイプライティング	二	二
經濟大意	二	二
農業大意	三	三
移植民論	一	一
國際法	一	一
スペイン語	九	九
英語	三	三
農業實習	二	二
合計	三五一 外ニ實習時間	三五

入學資格は一般専門學校と同一である。

定員三十名に對する第一回受験者は二四〇名で、四年四月二十七、八日に入學試験を行ひ三十九名の入學を許可した。

これ等別科生の生徒としての取扱は全く本科生と同一であつて、教官もスペイン語と農業大意の教官以外はすべて本科の教官が出講することとなつてゐる。

南米に横濱高商村建設の意氣 四年四月入學した別科生中三十四名が一ケ年後の五年三月卒業したが、その内の十五名は遠く南米ブラジルに渡航入植して横濱高商村を建設し新天地を開拓して今後の入植者の先驅ともなり廣漠たる南米の原野で活躍すべく五月下旬相率ゐて壯舉に上つた。これ等の一行はブラジル國サンパウロ州アラサツパ川郡アリアンサ植民地に在る力行會の農事練習所に入り、四五年の實際経験を積んだ上、附近の日本人農場の分譲を受けて自作農を経営し、すべて相當な地主として大農經營をなしてゐるものもあつたし、都會へ出て商業を營んでゐるものもあつた。さうして引續いて渡航入植した別科卒業生と協力して所期の目的に邁進してゐた。

八 開校五周年(昭和四年)前後

教官の動靜 開校間もなき大正十四年三月には下田教授が在外研究員として渡歐、續いて西村教授が出發したが、昭和二年五月下田教授歸朝と入れ替りに同月、渡邊教授が渡歐し、三年四月には光井教授が英國へ向け出發した。四年三月になると井上龜三教授が獨逸へ出發した。井上教授は大正十三年開校當時講師として經濟學を講述してゐたがその年の冬、近衛聯隊へ入隊のため一旦辭任、除隊後再び教授として歸つて來られたのである。

が、ここに留學の日が來たのである。光井教授は五年六月歸朝。

井上龜三教授が六年六月歸朝するや九月には井上鏗三教授が渡歐した。井上鏗三教授は九年五月歸朝したが、文部省の在外研究員規程が變更窮屈となり、留學の順に當つてゐた森田教授は十二年まで待たねばならなかつた。

これより先、大正十五年七、八月商工農の専門學校教授十二名から成る實業教育視察團が、滿支方面の教育狀況視察に出かけたが、田尻校長はその團長として、一行を率ゐて七月廿五日横濱發九月四日横濱歸着まで一ヶ月餘に亘り滿支各方面視察を遂げた。この行には支那語教官武田武雄講師が同道し現地見學と同時に通譯の勞をとつた。

昭和四年十一月末には、田尻校長、浦鹽經由で學事視察のため渡歐、獨逸で井上教授、イギリスで光井教授と邂逅、歐米各地を巡遊視察して五年十月二十日に歸朝された。

四年五月には德増教授が全國經濟調查機關聯合會の鮮滿産業視察團に加はり、約一ヶ月朝鮮滿洲を視察した。七年に同じやうな視察團で井上龜三教授が鮮滿を旅行した。

貿易別科新設に伴ひ中南米の實際事情を現地に視察調査する必要は夙くから痛感されてゐたが、七年に至つてその希望が實現し、下田教授は七月九日出發、十二月初旬まで滿五ヶ月間中南米の現地研究を遂げて歸朝した。果然本校に於ける中南米認識は深められ、別科卒業生の渡航希望を高めた。

國際オリンピック大會が七年夏、ロサンジェルスで開催されたが、日本體育界に重きをなす下津屋助教は體操監督として羅馬へ派遣されることとなり、六月三十日横濱を出帆してオリンピックの槍舞臺に選手の活躍を指導監督した。いま同教授が體育の時間に着てゐる胸部に日章旗をつけた紺色の運動着こそ其の時の記念の嗜着である。

應召出征の職員生徒 昭和三年五月濟南事件起り、在留邦人約百名が南軍に慘殺されたので五月八日第三次山東出兵となつた。名古屋第三師團に勳員令が下り、本校に於ても圖書課の増田彌之助氏が豫備陸軍三等主計として召集直ちに濟南へ出發、三年生長野芳朗、二年生三浦鏐一、一年生鈴木富雄の三君が應召した。

六年の滿洲事變には卒業生にも本校にも直接の影響はなかつたが、八年に至り第六回卒業の宮川保君が北滿共匪討伐中に名譽の戦死を遂げ、本校卒業生最初の戦死者を出した。

野外教練と查閱 野外演習と呼ばれた野外教練は大正十四年十二月四、五日高工を假設敵として戸塚藤澤間に行はれたのが抑々の始めで、配屬將校宮城善助少佐が統率した。第一日の四日午前八時四十分本校出發戸塚方面へ進撃、同夜は戸塚附近に宿泊、翌日午後二時歸校した。校庭に於て閱兵式舉行。廣瀬第一旅團長、伊藤第四十九聯隊長、横濱憲兵分隊長等列席。廣瀬旅團長、宮城少佐の講評、田尻校長の訓辭があり萬歳三唱して解散した。爾來毎年野外教練を舉行、或は箱根に或は一の宮に或は富士の裾野に二、三泊の嚴格なる軍隊的生活を送らせた。校長始め教官が交替で同行監督見學に當つた。さうして毎秋第一旅團長の查閱を受けたが昭和七年には、畏

くも朝香宮殿下が第一旅團長として台臨、十一月十七日査閲下調、十二月十五日査閲を賜はられた。

校歌成る 大正十五年開校式舉行の時に暫行的な校歌があつた。作詞者は判らないし果して合唱されたかどうかとも、いま記憶されてゐないが、歌詞は次の通りである。

校 歌 (暫行)

- | | |
|---------------------------------------|--------------------------------------|
| 一、紅の光の朝夕に
港開きて千歳の
立つはふぎばし見よわれの | 寄せし黒船夢破り
榮いやません横濱に
高等商業學校を |
| 二、富士見丘の三層の
空を涵して四つの海
後は箱根の連山と | 高樓はるか見渡せば
めぐる潮ぞ心地よき
八条芙蓉の峰の影 |
| 三、林の如く帆船の
勇み希望の豊かなる
勵み日夜にたゆまんや | 並ぶや富士の象徴と
健兒幾百一團の
想は廣し海ととも |
| 四、あゝあゝ亜細亞最大の
邦の若き子青春の
見ずや世界の厚生と | 大陸それのさきがけの
理想は高しまた遠く
利用につぐ我が使命 |

この暫行校歌が用ひられなかつたのは、恐らく歌詞が校歌として不十分であつたためであらう。その後、昭和二年頃、學生に校歌の募集をしたけれども、物にならず、昭和四年開校五周年が巡り來るので、御大典奉祝歌の

作者として文名の高かつた正富汪洋氏に歌詞をたのみ、山田耕筈氏に作曲を煩はして出來たのが現在の校歌である。四年十月完成。

校 歌

- 一、氣高く清き富士が嶺よ
富士見が丘のますらをよ
明るく晴れし大空の
廣き心に雄々しくも
立てるは山よわれわれよ
- 二、黒雲ひくぐまよふとも
海原いたく荒ぶとも
鍛へし腕や世を蓋ふ
強き氣をもてしるべぞと
示すは旗よわれわれよ
- 三、ああ横濱に寄せかへる

文化の潮に乗り出でて
他國の岸をうち洗ひ
わがなす事業に驚けと
躍るは濤よわれわれよ

四、おゝ肩あげて唱はまし

雄圖は心に智慧包む
まことの愛に微笑みて
行く行くところ野に市に
薫るは花よわれわれよ

開校五周年記念祭 當時不況の眞只中であつたので緊縮一點張りの五周年記念祭は四年十月二十一日の開校記念日を中心として舉行された。

その勢頭にはすでに寮生を容れてゐた寄宿寮の寮祭が十月十七日に開かれ、(第一回寮祭は三年十月十七日に舉行)各室の飾付は寮生の智慧を絞つて趣向がこらされ、二十日大運動會、十九、二十、二十一の三日間寫眞展覽會、二十二日記念講演會―日銀副總裁深井英伍氏の「金解禁と其準備」慶大教授小泉信三氏の「マルクシズム

とボルシェヴィズム批判」、二十六日近縣中等學校陸上競技會と同柔道大會、十一月三日庭球大會、九日體育會と音楽會、十日近縣中等學校剣道大會、十七日全關東學生卓球大會等が催され、二十三日に外語劇を以て終了したが、平年以上に特別の行事はなかつた。

消費組合設置 教職員及び生徒の共益を目的としその消費經濟の合理化を計らんために井上鎧三教授の指導の下に組織されたもので、昭和五年に設置された。生徒が理事として、教官組合長の監督の下に業務の執行に當り勞働奉仕である。

資本金は、組合員たる教職員が就任し生徒が入學した際に金三圓を出資して活用し、退會卒業の際出資金を返戻する。

事業として、書籍文房具その他の學用品の販賣、食堂の管理等をなし、設立以來原價主義を採用し、且つ市内相模屋百貨店と六分引(後、越前屋と八分引)丸善と五分引の特約販賣を受けてゐたが、昭和十七年四月以降は書籍の定價賣りが書籍組合の嚴守するところとなり又市内商店の割引販賣の特點もなくなり自ら市價販賣となつた。現在は報國國生活部購買班となつてゐるが詳細は後述する。

對高工野球定期戰の復活 兩校の主張、三回戰か一回戰かの主張が相容れずに、四、五の二ヶ年は中絶してゐたが、これはたしかに横濱球界にとつて遺憾のことであり六年に到つて、三回戰による定期戰が復活して俄然兩校の選手は勿論應援團は緊張し横濱球界は色めき立つた。「濱の早慶戰」であり、最も人氣のある對校試合だつ

たからだ。

本校は前年の五年左怪腕投手荒木八郎の入学によつて一段と強味を増し、五年度全國高専大會の覇者四高を迎へて三對二で退け、更に、有名な小川、佐藤、三原、夫馬の巨豪を抱へた早大新人軍と一戦を交へたが、荒木のカーブとドロップに早大の健将も全く手が出せず、三振十三を喰ひ安打僅かに三本を散發したのみで、五人對一で本校のために敗退した。その他帝大とは十五對五の大差で勝ち、中央大學專修大學に對しては新人を配して對戦しながら大きな差を以て退けてゐる等陸目の活躍振りであつた。

二勝二敗の後を受けた復活第五回定期戦は六年五月三十一日その第一回戦を公園球場で交へた。宮崎麗見の中心堅芝生席に叩き込んだ大本壘打等安打十二を數へ、十二人對五で本校が第一回戦を獲得、第二回戦は開港記念日に舉行、これまた六對三で本校勝ち、かくて復活第五回戦はストリートで本校の勝つところとなつた。

復活定期戦のすばらしい人氣は、入場券が僅かに賣出後十八分間で賣盡したことや前賣券がプレミアム付で賣買されたこと等で十分窺はれる。それだけに試合終了のエール「ハイザト高工」と「フレイ高商」が涙を以て應酬される悲愴の場面を展開する。

翌七年も八年も本校が優勝し三年連覇といふ輝しい戦績を残した。八年にはマイクロフォンがネット裏に据えられ、當時野球放送の第一人者松内則三氏によつて、この定期戦の實況が放送された。

因に復活第一定期戦のすばらしい人氣は次の入場者數及び入場料總收入の記録によつて瞭かである。

第一日	入場者總數	一萬五千六百六名
第二日	同	一萬六千六百九十二名
合 計		三萬一千七百九十八名
總收入額		八千三百五十九圓六十錢

九 就 職 状 況

不況の深化 本校は大正十三年四月に開校し昭和二年三月に第一回卒業生百十七名を出したのであるが、大正末期は九年恐慌以來の不況が続いてをり、關東大震災の打撃で、弱り目に祟り目の經濟界に始めての卒業生が行くのだから、本校としてはその就職については頗る心を痛めた。けれども就職運動については十分自信のある田尻校長の献身的轉旋の甲斐があつて、先きにも敍べた如く採用申込員數は就職希望者の二・七八倍、卒業までに十二名を残して就職が決定した。先づ當時の狀勢から言つて最上の成績だつたといつてよく、滑し出しは上々であつた。

然るに不況は漸次深刻になる。昭和二年三月には東京渡邊銀行の破綻を動機として、四月二十一日には十五銀行が突如休業し、金融界一角の崩壊を動機として金融恐慌は全國に波及し四月より九月に至る四ヶ月で休業せる銀行總數三十七行に上つた。四年七月には井上蔵相が金解禁を敢行して、株式は慘落、濱口内閣は緊縮實行豫算

を決定。この時に恰も紐育株式市場の恐慌に端を發した世界的恐慌は、我國の經濟界にも甚しい影響を及ぼし、五年に入るや、金の流出、輸出貿易の不振、物價低落、金利低下等となつて現はれ、一般事業界の不振はいよいよその深刻の度を加へて行つた。更に六年九月には滿洲事變勃發して大陸に於ける市場を喪失するといふ状態で、四年から七年頃に至る時代は方に不況の最も深刻化した時であつて生活難失業苦の聲は巷間に滿ち溢れてゐた。當時文部省の統計に表はれた諸學校の就職率は僅かに平均三、四割に過ぎず、卒業生の就職の機會は塞がれ思想險惡の重大原因をなした。

就職難時代 卒業期の學生が就職に心を奪はれる状態は實に同情の限りである。二年十月二十三日附の「横濱高商新聞」(第四號)の社説には早くも「就職難」の見出しで學生の關心の大きいことを示してゐる。五年四月二十五日付「高商學報」(第二十三號)の二面には「就職戦線」を語ると題して、本科百五十六名昨年より約三十名多く更に別科第一回生三十四名の卒業生を加へたが、事業界は不振を極め緊縮一點張りであり、田尻校長は渡歐不在中であつて、條件が頗る悪い。けれども古館校長代理の熱心なる努力と諸教授の援助により、卒業までに九十八人の決定を見たが、なほ三十四人の未決定者があつたことを報じてゐる。おそらく最大の就職難の年であつたらう。六年一月二十七日付「高商學報」(第二十九號)には三面に初號の大見出しで「目下卒業期迫り就職戦線は展開する」「どんな處でも口さへあれば」「不況の中に決死の運動」と悲痛な活字を列べ「全國大學専門學校の卒業生約三萬は何處へ行く、暗澹たる就職戦線をめぐつて身の振方へ四苦八苦の態である。各學校と

も就職の斡旋、賣り込み運動に狂奔してゐる」と説明をつけ、本校も本科百三十餘名、別科二十六名の卒業生を出す筈だが、幸ひに田尻校長の大活動で、日本銀行三井三菱等の巨大銀行、明治製糖、満鐵、大阪商船の大會社を始め八十有餘の銀行會社から一名乃至三、四名宛の申込があり、すでに三、四名は決定し「案外實行きがよさう」だと報じてゐる。

かくの如く不況のどん底にあり就職に最も困難を極めた時代に、多少明るい報道のあつたのは、卒業式までに就職希望者の八、九割を就職せしめ得たし、八、九月頃までには殆んど全部の就職を實現せしめることが出来た本校當局の自信と實績とを反映するものであらう。

けれども當時の就職がいかに困難であつたかは、申込側の採用條件が孰れも成績優秀、身體強健といふ最上の條件をつけてゐたし、就職試験がまた頗る難關であつて採用の爲めといふよりもむしろ體よく拒絶する爲めのものといふべきだつた。蓋、官廳銀行會社の幹部の机には、それぞれ傳手を求めて集まつた履歴書が山積し、やむを得ず斷る口實の爲めに採用試験をやるといふところも尠くなかつた。「就職戦術」とか「就職の秘訣」等といふ際物的刊行物が、溺れる者藁をも攫むの例への通り盛んに賣れたのもこの頃である。七、八名の採用に千人数の申込者があつた(東京某大新聞社)などといふのもこの時代の風景であつた。

かかる極度の不況、就職難の時代に、卒業一ヶ月後に九割前後(昭和五年は最低で七割四分)の就職決定を見(別表(二三頁)参照)未決定者も夏頃までには殆んど全部が就職したのであるから、「横濱高商には入學難は

あるが就職難は無い」とまで世間から囁はれたのも故ありといへるであらう。かかる結果を擧げることの出来たのは、全く田尻校長の献身的努力の功績であつて、萬人の等しく認めるところである。就職事務を執る庶務課の勞苦もそれだけに一通りでなかつた。

なほ二三頁の表「卒業一ヶ月後ニ於ケル卒業生就職状況」は毎年四月二十日現在を以て文部省へ報告した記録によつて作成したものであるが、昭和八、九年頃までは毎年若干の未就職者を殘してゐるけれども、これは當時三井、三菱、日本銀行等の最有効會社が、學生の勉學を妨げざる趣旨を以て「六社協定」なるものを作り、卒業試験終了までは採用銓衡を一切差し控へることを申合せ、他の銀行會社も多くこれに倣つたため、就職決定時期が著しく遅れ、隨て前述の調査期日には尙若干の未就職者を殘したのであるが、これも七、八月頃までには全部決定し、長く浪人の状態にあるものは皆無であつた。

對界好轉と就職状況 世界的不況はいよいよ激化して來たが、六年六月オーストリアの大銀行クレディット・アンシュタルトの破綻を口火として金融大恐慌が世界的に波及し、英國が金本位を離脱した。我國でも正貨準備が十月末には七億圓を割る状態となり遂に十二月金輸出再禁止の止むなきに立到つた。

七年に入るや一月上海事件が起り二月には事件が擴大する。國內には血盟團事件や五・一五事件が起つて物情騒然たるものがあつた。一般産業界の萎靡沈滞、失業者の激増も著しかつたが農村の疲弊はその極に達して社會思想もまた頗る險惡となつて直接行動によるテロ事件が頻發したのである。

七年の上半期は、財界は全面的に極度の沈滞に陥つてゐたが、久しきに亙る不況の繼續中に合理化が進められて事業界は着々と整理され堅實なる基礎が出来、不況は漸く底をついて緩慢ながらもやや上向を示して來た。殊に貿易は金輸出禁止に因る爲替低落、國際情勢險惡化に備へる準備態勢等によつて、輸出入とも顯著に恢復し、前年に比して輸出二三%、輸入一六%をそれぞれ増加し、貿易關係事業と軍需工業には景氣恢復の兆が現はれて來たが、全事業界はなほ未だ不況状態を脱せず、所謂跛行景氣がここ二、三年続いたのである。オックスワ英帝國會議が開かれてブロッツ経済形成の先驅を作つたのは七年七月から八月にかけてであり、爲替安と生産費安に乗じて世界各國に本邦製品が氾濫し各國の關稅障壁を突破して遂に直接貿易抑壓策を執らなければならぬようになつたのも、九年頃であつた。

跛行景氣とはいへ景氣は上昇して來たから追がの就職難も餘程緩和された。八年四月二十八日の高商學報第四十六號には「不況を一職して就職率九十二パーセント 依然就職界の王者を誇る」といふ見出しが現はれてゐるが卒業までに假令全部の就職決定を見なかつたにせよ、かなり希望のある明るい情勢が反映してゐる。更に翌九年一月二十六日の學報第五十二號には「非常時の波に乗つて採用申込殺到 就職難今いづこ」といふやうな景氣のよい見出しで大會社の採用申込協定（所謂六社協定）が自然消滅して申込は早まり、各會社からの申込殺到で、庶務課はその整理に忙殺されてゐると報告され、事實卒業までに殆んど全部の決定を見てゐるが一月中にすでに六十名ばかりは就職が決定した。まさに「春は朗らか」であつた。

て思想局を省省内に設け置いた。後、九五年五月には國民精神文化研究所を開き、翌六月には従來の學生部を擴張し、積極的思想指導の方途に出で、九年四月、五帝大大學總長を中野に召され、學修思想につき御下問遊ばされた。文部當局は更に、昭和九年九月、左傾思想は洵に國家として憂慮すべき状態であつたが、畏くも上聖におかされても御念遊ばさる。後、今及び。

[illegible]

件がが四年四月所謂「四・一六事件」として、多敷の檢舉を見たが、また大田「學門」學校の學生の檢舉とこれらとのかが各々

六月、第二次共產黨事件が昭和三年三月所謂「三・一五事件」として八百五十五名が起訴され、第三次共產黨事件が第二次正二年

の彈壓は愈々加つて來て、思想、實踐の方團體へ檢舉の手が伸びて行つた。第一次共產黨事件が第二次正二年

方、農民、工場労働者、労働運動、熱烈な燃え益々、命の安秩序を脅かす性質になつて來たので、政府

廢棄品として扱われる。

多し、い、理論のみで應り易い學生の教化に當る教育を始めて、各學校、校局のこの赤化思想に對する對策は、尙に苦
眞無垢の學生を或は赤色思想に無批判に引き入れ、共產黨團體に無反骨に加盟せよと、感激の性に、強烈な、夢の
さうした時代であるから、ミレニウムの指令が、日本の共產黨を、左右し、共產黨が、學生に、動きかけ、て、純
師の跡に、つゝく。く。世は、滔々として、マルクス、レーニン、色に、發せられた。

師の跡につく。世は滔々としてマルクス・レーニエに發りおされた。

が大流行となる。理論は實證によつて裏付けられねばならぬとして、學者が實際運動に投ずる。學生會相互率わかつて學が研究され、社會科學研究會が各學校に出來る。ジヤサリスマト共産的理論を提へ、反資本主義學說が説かれます。社會科學研究會がマルクスの社會主義を擁護する。同時に、小作爭議、勞働爭議として實際上の勞資の對立が展開する。マルクの社會主義階級闘争を握つても就職出來ないで復入をせざる餘儀なきとれる。世を上げてける生活苦の原因を求めておいて資本主義經濟組織の缺陷をとりとす。この時代のあらう。

落として村恐慌を來してゐることから、郷會からの失業者が流れて、人口の過剩が生じてゐる。失業者は、農産物の價格が暴落して、生活に苦しい。四年の間に、金の恐慌、大正九年の恐慌、關東大震災、昭和二年の金の恐慌、四年の金の恐慌、緊縮財政政策、不況、思想問題、大正九年の恐慌、關東大震災、昭和二年の金の恐慌、四年の金の恐慌、緊縮財政政策、不況、思想問題、

本校の學生も當時の思潮に影響され、社會問題の研究に没頭したことは當時の學報の論調や收載記事によつて窺ふことが出来るけれども、極端に趨るものなく、自制して實踐運動へ誘惑されたものは殆んどなかつたのは、恒に穩健中正を尚び、時流に乗る無批判無反省の盲目的行動を嚴に戒めてゐた學校當局の訓育の徹底と、學生自身の批判的研究態度堅持との結果であつたことは疑ひないところであり、時代思潮に掉しながらもこれをよく乗り切つて決して押し流されず、毅然たる姿勢を把持し得たことは、蓋し誇るに足りるであらう。

本校の直接訓育機關は生徒課であつて創立當初から昭和三年までは、官制上、教授中から生徒監が補職されてゐた。第一次生徒監は栗林教授、生徒監心得に小幡助教が任せられ、その後、岩本、藤田、下田教授が相次で生徒監の任にあつた。昭和三年十月二十九日官制の改正により、生徒監の補職は廢され生徒主事及生徒主事補が任せられることとなり、内山教授が生徒主事兼教授に、小谷助教が生徒主事補、兼助教に任せられた。その後内山主事の轉任に伴ひ八年十一月以降、岡野教授が生徒主事となり、又下田、藤田、南種、不二門教授が兼任生徒主事となつた。岡野主事轉任により十四年以降は黒澤教授が主事となつた。主事補は小谷氏の後、九年より十三年まで富成助教、十四年より十七年轉任まで武市助教が任せられた。内山主事及岡野主事初期時代が最も思想問題險惡化し世相甚だ面白からぬ時であつて、生徒主事は事實上、思想主事として文部省、檢察當局等の對策に呼應して、思想對策に異常な苦心を拂はれたのである。

社會教育へ進出 文部省は思想對策の一つとして且つ専門教育の社會的開放の目的を以て昭和四年社會教育局

を新設したが、これより先き昭和二年頃から大學専門學校の教官を動員して各地に成人教育講座を開設した。

「國民教育を了へて實務に従事せらるるものに對し須要なる知識を、なるべく平易に講述して國民生活の實情に適せしめん」とする主旨を以て早くも昭和二年十月には文部省より本校に成人講座開設が委嘱された。

二年十月三十一日開講、講堂は南吉田小學校で講義時間は毎夕六時半から九時までであつた。

講習要目及講師

(イ) 公民科

- | | |
|-----------|-----------|
| 一、縣政について | 知事 池田 宏 |
| 二、市政について | 市長 有吉 忠一 |
| 三、日常生活と法律 | 教授 不二門 龍親 |

(ロ) 商業科

- | | |
|-----------------------|----------|
| 一、横濱港の重要輸出品と其相手國の經濟事情 | 教授 下田 龍三 |
| 二、金融と外國爲替 | 講師 森田 優三 |

(ハ) 財政科

- | | |
|-------------------|----------|
| 一、普通選舉の實施と國民の財政知識 | 講師 岡野 鑑記 |
| 二、地租と委譲 | |

成人講座は聴講無料で資格は男子二十歳、女子十八歳以上にして現に在學中にあらざる者は何人でも差支なく聴講が出来、二百餘名の申込があつて盛會だつた。

成人講座に併んで、市民の精神文化涵養のため市民講座が第二隣保館で十月中旬から十二月中旬まで開かれ、本校からは岩本教授が商業概論、不二門教授が法學通論、徳増教授が經濟原論を講述し、高工教授も機械工業、化學工業を講じた。

成人講座は開催當時の社會事情を反映してその講義内容を定めるから、昭和二年以降隔年委嘱を受け開講した講座の題目を顧みるとその時代のトピックスを識ることが出来る。試みに四年十一月四日から開講された成人講座の題目を掲げると次の如くである。

四日(月)	失業対策の種々相	徳増	教授
五日(火)	緊縮、解禁、好況	森田	教授
六日(水)	國債整理問題	岡野	教授
七日(木)	フアシストについて	渡邊	教授
八日(金)	消費經濟の合理化	井上	教授
九日(土)	新民事訴訟法について	不二門	教授

一、現代經濟生活の特質	徳増	教授
二、日滿の經濟諸關係の現在と將來	井上	教授
三、非常時財政の解剖と批判	岡野	教授
四、最近我國の外國爲替事情	森田	教授

であつて非常時局をよく反映してゐる。

十一 開校十周年記念式

開校十年間の回顧 本校創立後三年にして世は大正から昭和に代つた。この間、大正天皇御大葬の哀しみ。諒闇、今上天皇御即位の大典と、國民は國家の大儀を送り迎へまつた。社會的には世界不況の深刻化による經濟的脅威に疊され失業苦、就職難と思想險惡化に悩まされた。更に上海事件の起るあり、滿洲事變の勃發あり、一方には盟邦滿洲國が建設されるとともに他方にはこれを契機として國際聯盟を脱退するなど國際關係はいよいよ緊迫の度を加へ來つて所謂準戰態勢を執らざるを得なくなつた。

創立匆々の本校としては、これ等内外の多事多端は方に大きな試煉であつた。然るに幸なる哉、田尻校長の献身的創業の努力の下、教職員和衷協力し、更に優秀なる素質の學生が全國より來り學んで、業を卒へるや、社會各方面に活躍して國家有爲の人材として母校の榮譽を昂めるありて、本校の眞價世の認むるところとなる。開校十ケ年、それは基礎建設期でもあり搖籃期でもあるが、この建設期に當りて社會不況の厳しき試煉に逢遭したるは却て愈々勇猛心を奮ひ立たせて將來の發展大成に培ふところとなるものと信じ、寧ろ本校にとりては天與の恵みであつた。

十年鏖骨彫心の學園を記念すべき開校十周年記念式と記念祭とが、昭和九年十月中旬を期して舉行された。

十周年記念行事日程

十月十四日(日)

一、同窓會主催物故者慰靈祭

午後一時三十分(本校講堂)

一、同窓會大會

午後三時三十分(開港記念會館)

十月十七日(水)

一、近府縣中等學校柔道大會

午前八時三十分(本校道場)

十月廿一日(日)

一、記念式

午前十時(本校講堂)

一、表彰式

午前十一時三十分(同上)

一、名士講演會

午後一時(同上)

演題及講師

國際關係の推移と我國民の覺悟 特命全權大使 出淵 勝次氏

日本民族の進出に就て 衆議院議員 安達 謙藏氏

一、提灯行列

午後五時(雨天順延)

一、三曲大演奏會

午後五時三十分(開港記念會館)

一、露糸經濟資料文獻展觀

十四日—二十一日 (調查部閱覽室)

十月廿二日(月)

一、映畫大會

午後六時(本校講堂)

十月廿三日

廿四日(火)
廿五日(水)

一、第三同校內體育大會

各午前八時(本校々々庭
武道場體育館)

十月廿八日(日)

一、近府縣中等學校劍道大會

午前八時(本校道場)

十一月三日(土)

一、近府縣中等學校蹴球大會

各午前九時(本校々々庭)

十一月四日(日)
五日(月)

一、近府縣中等學校蹴球大會

各午前九時(本校體育館)

十一月十日(土)

一、祝賀音樂大演奏會

午後一時三十分（開港記念會館）

十一月十一日（日）

一、全關東卓球個人選手權大會

午前九時（本校體育館）

一、近府縣中等學校陸上競技大會

午前八時（本校競技場）

十一月十七日（土）

一、室內體育大會

午後零時三十分（本校體育館）

十一月十八日（日）

一、近府縣中等學校庭球大會

午前八時（本校コート）

一、近府縣中等學校弓道大會

午前八時三十分（本校弓道場）

十二月二日（土）

一、外語劇大會

各午後五時（本校講堂）

記念式典 菊薫る秋晴の十月二十一日感激と歡喜に包まれて輝く開校十周年記念式典が本校講堂に催された。定刻、五百の在校生と百餘名の同窓會員で式場の階上階下がいつぱいになる。聽て教職員來賓が入場する。次で校長が先導して松田文部大臣が臨場され、式典が開始された。

橫濱高等
商業學校

開校十周年記念式次第

昭和九年十月三十一日午前十時

開式

- 一 君が代 合唱
- 一 校長 式辭
- 一 文部大臣 祝辭
- 一 來賓 祝辭
- 一 卒業生總代 祝辭
- 一 生徒總代 祝辭
- 一 校歌 合唱
- 閉式

十年勤続者表彰式

開式

- 一 校長表彰狀並記念品授與
- 一 同窓會記念品贈呈
- 一 同窓會代表挨拶
- 一 勤続者代表謝辭

閉式

田尻校長の式辭(要旨)

私が本校校長として赴任したのは大正十二年十一月末であつた。當時横濱は焦土と化し現在のこの場所から見ると一面の饒野原であつた。自分はこれを見て横濱復興のために努力しなければならぬと感じた。大正十三年四月開校し横濱高工のバラツクの一部を借受け、そこで授業をする有様であつたが、一年経て現在の場所へ移り、生徒控室と武道場を教場として使つた。その三年目に本館が出来上つた。今日の市の復興と校舎の建築とを見て誠に今昔の感に堪へぬものがある。

さて本校の教育方針は信頼するに足る人物を養成することにある。幸ひ現在まで八回千百人の卒業生を出し、本校の教育方針によつて孰れも社會各方面で大いに活躍してゐることは欣快とするところである。又貿易別科の卒業生も海外において活躍してゐる。本日は意義ある十周年記念日に際し文部大臣閣下を始め縣市の閣下各位の御臨場を仰ぎ誠に感謝に堪へぬところであるが、我々は今後とも自重し協力一致して過去十年の光輝ある歴史を傷けぬように行きたい。

文部大臣祝辭

横濱高等商業學校へ開校十周年ヲ迎へテ茲ニ其ノ記念式ヲ舉行セラルルニ當リ一言祝辭ヲ述べルハ余ノ欣快トスルトコロナリ

惟フニ本校ハ大正十二年恰モ我カ産業貿易ノ大ニ伸長ヲ要スルノ秋ニ際シ我カ國貿易港トシテ權要ノ地位ヲ占ムル横濱ノ地ヲトシテ創立セラレ爾來漸々トシテ發展向上ノ一路ヲ辿ルコト正ニ十年此ノ間卒業生ヲ出スコト千有餘人校運今日、隆昌ヲ致セルハ慶賀ニ堪ヘズ抑々十年ハ事物更新ノ一轉機ナリサレバ此ノ機會ニ於テ既往ノ成績ヲ顧ミ式典ヲ舉ゲテ其ノ慶ヲ共ニシ更ニ人心ヲ新ニシテ一段ノ躍進ヲ將來ニ期スルハ誠ニ意義深キ好舉ト謂フヘシ今ヤ内外事滋クシテ學國緊張ヲ要スルノ時機ニ際會ス職員各位生徒諸子ハ其ノ責任ノ容易ナラサルヲ自覺シ今日ノ慶典ヲ契機トシテ奮起勵精益々其ノ使命ノ達成ニ邁進セラレンコトヲ望ム

昭和九年十月二十一日

文部大臣 松田源治

東京商科大学長佐野善作氏祝辭

閣下竝ニ諸君

本日此處ニ本校創立第十周年記念祝典ニ參列スルノ榮ヲ得祝辭ヲ呈シマスルコトハ私ノ欣幸トスル所デ御座イマス。

創立記念式ハ近年一ノ流行事ノ如クニナリマシテ官公署ヲ始メトシ協會學校并社病院會社組合商店果テハ劇場娛樂場ノ類ニ至ルマデ其創立後或年數ヲ經マスト記念式ヲ舉ゲ御祝ヲ致シマス。流行事デアリマスカラ記念式ハ必ズシモ有意義有價値ノモノノミニ限ラズ中ニハ至ツテ詰ラズモノモアル様デアリマス。勿論其ノ之ヲ行ヒマス當事者ニ取リマシテハ主觀的ニ有價値デアリ時トシテハ廣告宣傳ノ手段タルニトモアル様デアリマスガ之ヲ社會カラ見テ客觀的ニ果シテ祝賀ヲスベキ價値アリマ否ヤハ其ノ個々ノ場合ニ就テ判斷スルノ外アリマセン。

ソレデ今本校ノ創立十周年記念式ニ就テデアリマスガ私ハ之ニ甚ダ大ナル價値アルコトヲ認ムル者デアリマス。仍テ其ノ然

ル所以ヲ述ベマシテ以テ今日ノ祝辭ト致シタイト思フノデアリマス。

抑々學校ノ記念式ノ價值ハ之ヲ其現實ノ成績ニ照シテ判斷スルカ又將來或成績ヲ成シ遂ゲ得ベキ力ノ有無多少ニヨツテ判斷スルカ或ハ又右二者双方ニ之ヲ求ムルカデアリマスガ創立十年ト云フガ如キ日尙淺キモノニアリマシテハ之ヲ現實ノ成績ニ徴スルハ無理デアリマシテ將來或成績ヲ得ベキ力ノ存在ニ依テ決メルヨリ外ハナイノデアリマス。而テ私ハ本校ノ場合ニ於テ其力ノ存在ヲ本校教育ノ方針ト教職員諸氏ノ努力トニ認ムル者デアリマス。本校ノ教育方針ノ寔ニ雄偉ニシテ而カモ克ク時勢ニ適合シ教職員諸氏ノ熱誠努力ノ眞ニ尋常ナラザルコトハ本校ヲ識ル吾々ノ齊シク認ムル所デアリマシテ是レガ變テ異常ナル業績トシテ現ハレ來ルベキハマタ吾々ノ齊シク期待スル所デアリマス。

本校ノ教育方針ノ如何ナルモノナルヤハ先刻支那ノ頂戴シマシタ「本校要覽」トイフ刷物ノ中ノ「本校施設ノ大要」ト題スル部分ニ掲グル所デアリマスガ之ヲ要約シマスレバ「本校ハ夙ニ現代教育ノ最大缺陷ガ德育ノ不振ニ在ルコトヲ認メ特ニ人格ノ陶冶ニ重キヲ置キ實業家トシテ吾人ノ信賴スルニ足ルベキ人物ヲ養成スルコトヲ目標トス」ト云フノデアリマス。而シテ其ノ「實業家トシテ吾人ノ信賴スルニ足ルベキ人物」トハ如何ナル人物ヲ意味スルヤト申シマスルト其レハ普通世間デイレフ所ヨリモズツト輪郭ノ大キイモノデアリマシテ管ニ取引上ノ約束ヲ守ルトカ信用ヲ重ンズルトカ物堅イトカイフ棟ナ人物タルニ止マラズシテ更ニ高邁ナ器宇宏大ナ大乗ノ人ナ格デアツテ克ク實業家ノ社會的使命ヲ理解シ其本分ヲ盡シ得ベキ實力ト意思ト勇氣トヲ有スル所ノ信賴スベキ人物トイフノデアリマス。即チ本校ノ學徒ニ對シテ冀求望ミセラルル所ハ或學者ノ實業ヲ借リテ申セバ「人ハ實業家タル前ニ先ヅ社會人タルベク經濟人タル前ニ倫理人タルベシ」トイフノデアリマシテ本校ハ斯ル人物ヲ養成シテ實業界ニ送ルコトヲ教育ノ本旨トシテ居リソレニ向ツテ校長以下全職員力不斷ニ精進シツツアルノデアリマス。

御承知ノ通り我國資本主義産業組織ノ下ニオケル自由競争制度ハ幾多ノ害惡ヲ生ミ今ヤ殆ンド行キ詰ツテ窮極ニ達シタルカノ如キ觀ヲ呈シテ居リマスガソレハ組織制度ノ罪ト云フヨリモ寧ロ人ノ罪デアツテ畢竟實業界ニ其人ヲ缺キ實業家ノ社會的使命ヲ理解セル所謂信賴スルニ足ルベキ人物ニ乏シイ結果デアリマス。故ニ此窮極ヲ打開シ我經濟組織ヲ支持シ向上セシムルノ途ハ唯ダ實業ニ從事スル者ヲシテ克ク其社會的使命ヲ覺ラシメ其本分ヲ盡シシムルヨリ外アリマセン。即チカカル人物ノ養成ハ寔ニ刻下ノ急務デアリマシテ其養成ニ努ムルコトハ眞ニ急キ事業デアリマス。

今ヤ我商業教育ハ此問題ニ直面シテ從來ノ如ク徒ラニ實際界ニ阿諛追隨シツツ其ノ當面ノ仕事ヲ風習仕來リナドノ末ニ役ニ立ツ事務家ヲ養成スルヲ以テ能事トセズ又單ニ物堅キ保守的使用人ヲ養成スルヲ以テ足レリトセズ一步社會ニ先ヅ一頭地高キニ身ヲ置イテ世ヲ指導シ其風紀ノ肅正腐敗ノ淨化ニ當リ得ベキ開士ヲ養成スルヲ以テ目的トスルニ至リマシタ。而テコノ方針ニヨル活動ヲ商業教育ノ革正運動又ハ倫理運動ト申シマス。

然リ而テ私ハ今本校ノ田尻校長ノ人格ニ於テコノ倫理運動ニオケル最も有力ナルチャムビヨノ一人ヲ見出し其ノ主宰セララル本校ガ此運動ノ一大道場デアリ一大陣營デアルコトヲ知り又今日マデ社會ニ送り出セル一千有餘ノ卒業生ガ此運動ノ前線ニ立チテ奮闘シツツアルヲ認メ尙現在及將來ニオケル本校ノ學生生徒ガ何レモ此運動ニ參加スベキコトヲ期待シマシテ本校創立第十周年記念式ノ大ニ價值アルコトヲ認識スル次第デアリマス。

私カニ思ヒマスノニ田尻校長始メ本校職員諸氏ハ此今日ノ記念式ヲ舉行セラレソレニ依テ其ノ平素努力セラレツツアル所ノ教育運動ノタメニ内ニ向ツテハ益々人ノ和ヲ闡リ結束ヲ固クシ外ニ向ツテハ其意義精神ヲ天下ニ宣明シ之ヲ契機トシテ以テ大ニ爲ストコアラントノ意圖ヲ有セララルノデアリマセウ。果シテ然リト致シマシタラバ此記念式典ハ主觀的ニモ亦客觀的ニモ寔ニ意義アリ價值アルモノト謂ハナケレバナリマセン。私ハ今ヲ距ル八年前大正十五年本月日本本校開校式ニ臨ミマシテ此壇上カラ祝辭ヲ述ベマスルト共ニ其處ニ列席セラレタル横濱市有力者諸氏ニ對シ失禮デハアリマシタガ聊カ苦言ヲ提シ商業教育ニ於テ横濱市ノ當時稍々立遅レタコトヲ指摘シテ御注意申シタコトヲ記憶致シテ居リマス。然ルニ今日ハ如何デアリマス。横濱市ニハ立派ナ高等商業ガ二校モアリ而カモ本校ノ如キ倫理運動ノ陣頭ニ立チ大ニ實際界ヲ革正セントシツツアルモノアルヲ見マシテ實ニ今昔ノ感ニ堪ヘマセン。私ハ日本本校ノ記念式ノ價值ヲ十分認識致シマシテ田尻校長始メ本校教職員諸氏ニ對シテ深甚ノ敬意ヲ拂フト同時ニ邦家ノタメ又横濱市ノタメ衷心ヨリ本校ノ前途ヲ祝福セント欲スル者デ御座イマス。甚ダ不敏ニ長話シテ致シマシタガ之ヲ以テ祝辭ト致シマス。

なほこのほかに横山知事大西市長有吉商工會議所會頭ボイスアメリカ總領事渡邊名古屋高商校長の祝辭があつた。

十年勤績者表彰式 開校十年記念式典終了後引續いて十年勤績者表彰式に移り、校長教授書記守衛使丁二十二氏に對し學校より表彰狀と記念品授與、同窓會より記念品の贈呈があつた。

表彰狀

官職氏

名

本校創立以來精勵恪勤克ク其ノ職ニ任シ勤績茲ニ十年功績勲カラス仍テ之ヲ表彰ス

昭和九年十月二十一日

横濱高等商業學校長正四位勲二等 田 尻 常 雄

十年勤績者

氏 名

任命年月日

在職年月數

校長 田 尻 常 雄	大正二、二、一八	十年十ヶ月
教授 下 田 禮 佐	同 一三、一、二二	十年九ヶ月
同 古 館 市 太 郎	同 一三、三、一五	十年七ヶ月
同 不 二 門 龍 觀	同 一三、四、二一	十年六ヶ月

同 河 村 重 治 郎	同 一三、五、一七	十年五ヶ月
同 德 増 榮 太 郎	同 一三、八、三一	十年一ヶ月半
同 時 田 清	同 一三、八、三一	十年一ヶ月半
同 波 邊 輝 一	同 一三、二、二九	十年七ヶ月半
同 小 幡 孫 二	同 一三、四、二	十年六ヶ月半
同 下 津 屋 俊 夫	同 一三、三、三一	十年六ヶ月半
講師 小 白 寛	同 一三、三、三一	十年六ヶ月半
同 山 崎 與 右 衛 門	同 一三、四、七	十年六ヶ月
書記 齋 藤 照 之 助	同 一三、一、二三	十年九ヶ月
同 矢 島 照	同 一三、三、三一	十年六ヶ月半
同 吉 居 德 治	同 一三、四、一一	十年六ヶ月
雇 植 岡 金 次 郎	同 一三、三、三一	十年六ヶ月半
同 櫻 井 巳 之 吉	同 一三、四、一〇	十年六ヶ月
守衛 鈴 木 二 郎	同 一三、六、八	十年四ヶ月半
小使 澁 谷 省 三 郎	同 一三、五、一四	十年五ヶ月

同	手	東	松	太	郎	同	一三、四、一	十年六ヶ月半
同	關	谷	な	か	同	一三、四、三〇	十年五ヶ月半	
雇	小	川	ゆ	き	同	一三、一一、五	九年十一ヶ月半	

午後一時から本校講堂に於て次の如き名士講演があり頗る盛會であつた。

國際關係の推移と我國民の覺悟

出 淵 勝 次氏

日本民族の進出に就て

安 達 謙 藏氏

調査部閲覧室には調査部の蒐集保管してゐる蠟糸經濟資料二百五十四點を整理展觀して一般の興味を惹いた。夜は開港記念會館に三曲大演奏會を催し、學生の提灯行列が、學校正門から伊勢佐木町櫻木町驛前紅葉坂の順路を経て伊勢山太神宮に參拜萬歳を三唱して野毛、日之出町前里町を歸路にとつて學校へ歸着し、學校を擧げて祝賀に徹した。

記念祭の夜のだよめきを偲ばせる記事を「學報第五十八號」から轉載しておかう。

丘上に月微笑む歡喜の渦卷

舞へや歌へや若人の意氣

秋の夕暮、丘の白堊も金色に映えプラタナスもその長い影を地上に落す頃、お祝の赤飯に腹を拵へたカレツヂヤンは晩秋の

變さも物かは、元氣一杯で不二見ヶ丘を街道に進出して行つた。各々大きな船玉のやうなお提灯を高くかかげて「高商よいとこ、十とせの祝よ」の連發だ。丘の上り口の巡査がにこにこしながら「學生諸君大いにやるべし」。これより整然と四列になつて前里町より伊勢佐木町まで乗りこんで行く……「高商々々横濱高商は野球が強い……」街の兄貴が盛んに應援する。伊勢佐木町に入れば折からの雜間もサツと二つに割れて沿岸に垣を築いた群衆が盛んな拍手を送る「高商頑張れ」……提灯の光りもまばらになつて丘を登る。月冴えて白堊が夢の城の如く輝いてゐる。月光に満ちた校庭に師屋寮が友待畑にボツンと突立つてゐる。今宵一夜は裸になつて踊り狂ふ意氣だ。さあ踊れよ十とせの祝ひだ。手拍子足拍子恰好よろしく太鼓に合わせてドドンと踊りぐるぐるまはる。秋の夜空は全く澄んで月も微笑む狂喜のカレツヂヤン、天にも響けとさんざめき大地も動けと踊り狂ふ。高商よいとこ、十とせの祝ひよ。

慰靈祭 記念式典に先立ち十月十四日午後一時半から本校講堂に於て、物故教職員、同窓會員、在學生七十六名の慰靈祭が、神式により嚴肅に執り行はれた。遺族、教職員、同窓會員、生徒參列、校長祭文を奏して物故者の冥福を祈つた。物故者は教職員では生徒主事補兼助教小谷憲一郎氏、囑託湯川和平氏、雇員鈴木茂三氏の三氏、同窓會員千ヶ崎博君等四十氏、在學生三十三氏（寫眞參照）であつた。

祭 文

維時昭和九年十月十四日横濱高等商業學校同窓會員相寄り茲ニ清境ヲ設ケテ物故教職員同窓會員並ニ生徒諸君ノ靈ヲ祀ル
本校創立以來正二十春秋其ノ間ニ永訣シタルモノハ職員ニ於テ生徒主事補兼助教小谷憲一郎君、囑託湯川和平君、雇員鈴木茂三君、同窓會員ニ於テ千ヶ崎博君外三十九人、生徒ニテ鶴岡立助君外三十二人即ち合セテ七十六人ヲ算ス
爾ルニ物故職員ハ共ニ熱誠職ニ盡シ私ヲ棄テテ公ニ就キ病體ノ身ニ迫ルヲ知ラズ終ニ身ヲ以テ職ニ殉シタル者ニシテ實ニ公務員ノ典型タルニ恥ヂズ。物故同窓會員ハ皆學ヲ本校ニ修メ盛雪ノ功空シカラズシテ已ニ各々職ニ就キ之ヨリソノ體得セル人

格識見ヲ以テ之ヲ小ニシテハ一家ノ爲メ大ニシテハ國家社會ノ爲メニ大ニ貢獻スルトコアラントシタル者ナリ闕ラズモ不幸中道ニシテ或ハ二豎ニ殛サレ又ハ不慮ノ災厄ニ近ク而モ其ノ齡ヲ間ハバ皆而立ニ達セズ痛想歎シ堪ヘム。更ニ故宮川保君ニ至リテハ滿洲ニ於テ匪賊討伐ノ戰戰ニ殛レタル者ニシテ「死以テ國恩ニ報ジタルモノナリ」又在學中ニ死去シタル三十餘名ノ生徒諸君ハ志ヲ立テテ兩親ノ膝下ヲ辭シ本校入學ノ榮冠ヲ贏テ得タル年少ノ英才ナリ然ルニ天道此人ヲ嫉視シ未だ弱冠ニシテ夭折ス之ヲ嘆惜スル者豈獨リ兩親遺族ノミト言ハンヤ想フニ方今國際間ノ經濟戰ハ日ニ熾烈ヲ加ヘ國家ノ英才ヲ待望スルコト今日ヨリ急ナルハナシ此秋ニ當リテ七十有餘ノ英魂ヲ祀ル吾人ノ感慨轉タ深シ然リト雖モ人各々命數アリ徒ラニ歸ラザルヲ追想シテ止マザルガ如キハ男子ノ本懷ニアラズ我等ハ協力一致奮發一番以テ不二見ヶ丘學園ノ本領ヲ發揮シテ亡友ノ志ヲ達成セムコトヲ期ス

今茲ニ本校開校十周年ヲ迎フルニ方リ慰靈祭ヲ催シ聊カ在天ノ英靈ヲ慰メントス希クハ來リ饗ケヨ

横濱高等商業學校長 田 尻 常 雄
同窓會長

記念行事 豪華版の一つは十一月十日開港記念會館を會場に充てた祝賀大演奏會である。東京音樂學校生徒三百十名の管絃樂團と合唱團といふ大がかりのものでつた。本校音樂部員の「校歌」「祝歌」について最初に演奏されたのは管絃樂ゴールドマルク作曲の樂劇「サランタラ姫」序曲。次でシューマンの「夢」メンデルスゾーンの「おお雲雀」の混成合唱。井口基成氏のピアノ獨奏。管絃樂「アルルの女」第二組曲。マリア・トル女史のソプラノ獨唱等々文字通り音樂界第一人者の妙技に聴衆はただ陶然たるのみであつた。

十二月一日二日の兩日、金港名物と嘶される外語劇大會が本校講堂で開催された。十周年記念行事といふのでこの外語劇大會を街頭に進出させようといふ語學部員の張切り方だつたが、會場はつましく本校内としたが、

語學研鑽の汗を注いで築き上げた金字塔だけに、エキゾティックな夢幻境を現出して記念祭掉尾の幕を飾つた。スペイン語劇「デメトリオ・モンターノ」の綜合的迫力。支那語劇「五祖と六祖」の坊主ばかりのユーモラスな場面、英語劇の「ヴェニス商人」、獨語劇の「世襲山番人」、佛語劇「スカパンの詭計」孰れも學生の演技としての目標を立派にやつて退け頗る好評であつた。

約二ヶ月に亘る記念行事は上掲プログラムの示すやうに本校主催の各種體育競技會があり、その間には學友會各部の秋のスポーツ行事も織込まれて内容豊富に十分十周年の記念祝賀を果した。

記念事業 一、圖書目錄作成 學生の圖書館藏書の利用度は著しく高く、しかも年々その率が上昇の傾向を辿り(別表「閲覧狀況」参照)藏書數も逐年増加して來るので、圖書利用者の便宜のためには圖書目錄作成が急務であつた。しかし之には相當大きな費用が要るので實現は容易でない。ここに於て十周年記念事業の一つとして圖書目錄作成の件が執上げられ、八年末から準備に着手、分類整理、原稿の完成を急いで九月下旬漸く脱稿、十年十月に至つて印刷完了した。全卷六百三十頁、約一萬四千冊の和漢洋藏書を收載してゐる。この目錄は關係諸學校諸官衙圖書館に寄贈した。

二、プール建設 水泳部は昭和五年に學友會の一部として創設されたが自校プールを持たないために部員は非常に不便不利であつたし地方高商でも夙くから自校プールを持つものが少くなかつたので、プール建設が記念事業の一つとして執り上げられた。記念式準備に着手した九年六月頃から、學友會各部幹事評議員より成る實行委

序文及收載論稿の目次、次の如し。

序

回顧すれば十年前、横濱復興に魁して本校は灰燼の港都に創立されたのであるから、その使命の殊更に重きを痛感し、驚馬に鞭ちつつ日夜變化に専念、然かもなほ足らざらんことを怖れた。而てここに年を開する十年、本校が聊かなりとも復興の横濱に寄與するところありとすれば本校開設の趣旨の一斑は達せられたと言ふべき歟。

創設以來、本校は「信頼し得る人間を作る」ことを以て校是とし、大家族主義を標榜して協力一致、只管學問の向上、教育の徹底に邁進して來た。斯くて不斷の研鑽は穩健清新の學風となり、不撓の變化は克く醇朴敦厚の校風を興し得たことは洵に悦びに堪へないところである。

今、開校十周年記念の祝典を舉ぐるに當り、記念論文集刊行の企てあるや、全教官が各自の蘊蓄を傾けその專攻するところを發表して一大論文集の編纂せられたるは、偏へに本校教官の平素眞摯なる篤學研究の結晶に外ならない。是れ予の最も欣快とするところである。

一言以て序とする次第である。

昭和九年十月上浣

田尻 常雄

目次

第一部

白人の人口減少とその影響
法律行爲の解釋
商品保存問題
海上保險に於ける填補の種類

下田 禮佐
大竹 綠
南種 康博
岩本 啓治

人間の自然的人間學的性格と「計畫學問」の問題

燃料問題に對する一考察

貸借對照表論の推移と標準貸借對照表

勢力價值學説

——國民社會主義經濟學の一論——

權利行使の方式

英國の減債基金制度

本邦移植民の情勢と其將來の發展策

事業管理への補助としての標準減價相の觀察

我國製紙業に於ける産業統制

——特に洋紙の抄造業に就て——

イギリス重商主義學説と其社會的背景

價格分散と景氣變動

不二門 龍親
岡野 鑑記
福田 要
小宮山 敬保
井上 龜三
德増 榮太郎
森田 優三

第二部

マヤの考古學から見たアトランティダ大陸の假説

コーヘンの論理學に於ける體系概念

ドイツ人の惡人

Selig Letter の書き方に就て

Otto Ludwigs Meisterwerke

新渡戸博士著「武士道」の研究

取殘された問題

岡田 峻
富成 喜馬平
伊東 彌
光井 武八郎
山中 靜三
西村 綱
河村 重治郎

生徒課主任

教授兼生徒主事

湯川眞藏

同

下田喜藏

教授兼生徒主事

南種康博

講師

岡野鑑記

庶務課主任

雇

窪田保寛

會計課主任

書記

矢島春熙

臨時雇

高林義雄

書記

齊藤之助

同

吉居徳治

同

川野亮一

臨時雇

小川ゆき

教授

下田久子

同

井上龜三

書記

増田彌之助

雇

窪田長治

教授

南種康博

助教授

田尻彦幸

圖書課主任

副主任

同

佐禮三

商品課主任

寮務課主任

調査部部长

職員及備人表

(昭和九年十月一日現在)

種別	官職	定員	現員(在外研究中含ム)
----	----	----	-------------

校長	教授	二〇	二九
主事	助教	一六	一四
書記	主事	一	五
講師	主事	一	六
備外國人	教師	二	二
備外國人	講師	二	二
嘱託	教師	一	一
武道配屬	教師	一	一
校醫	醫師	一	一
守衛	給仕	一	一
定夫	小使	一	一
計		三五	七六

二、生徒

生徒數

(昭和九年十月一日現在)

第一學年	第二學年	第三學年	計	貿易別科
八二	一五〇	一三二	四六四	三三

本科入學志願者及入學者累年比較表

募集年次	種別	中學	商業	計	中學	商業	計
大正十三年度	中	七三八	二九〇	一、〇二八	中	八四	五〇
大正十四年度	入	七四九	三九四	一、一四三	入	一〇二	五二
大正十五年度	學	六一一	三三六	九四七	學	七〇	一五
昭和二年度	志	七二三	二九七	一、〇二〇	志	八六	五七
昭和三年度	願	七〇三	三四五	一、〇四八	願	七〇	一七
昭和四年度	者	九二五	三四八	一、二七三	者	八三	五九
昭和五年度	計	七〇八	二二三	九三一	計	九六	五〇
昭和六年度	中	七九三	二二七	一、〇二〇	中	一〇四	五四
昭和七年度	入	九〇一	二七八	一、一七九	入	一〇一	五一
昭和八年度	學	八八一	二五五	一、一三六	學	四九	一六
昭和九年度	商				商		

貿易別科入學志願者及入學者累年比較表

募集年次	種別	中學	商業	計	中學	商業	計
昭和四年度	中	二〇五	三五	二四〇	中	三五	三九
昭和五年度	入	三七	二六	九八	入	一四	四〇
昭和六年度	學	三〇	二七	五七	學	五	二七
昭和七年度	志	五〇	二七	四一	志	五	二八
昭和八年度	願	八三	一四	九七	願	六	三三
昭和九年度	者				者		

本科生徒原籍調

(昭和九年十月一日現在)

原籍	生徒數	原籍	生徒數	原籍	生徒數
北海道	一	青森	二	和歌山	三
東北	六	山形	七	德島	三
東部	三	秋田	六	香川	二
京都	五	福井	七	愛媛	五
大阪	八	石川	二	福岡	七
神奈川	三	富山	一	大分	四
兵庫	二	島根	一	佐賀	五
新潟	一	岡山	一	熊本	一
埼玉	六	廣島	六	鹿兒島	二
千葉	二	山口	六	計	四六四
栃木	一	高知	四		

貿易別科生徒原籍調

(昭和九年十月一日現在)

原籍	生徒數	原籍	生徒數	原籍	生徒數
北海道	一	山形	一	和歌山	一
東北	五	秋田	一	德島	一
東部	一	福井	一	香川	一
京都	三	石川	一	愛媛	一
大阪	三	富山	一	福岡	一
神奈川	三	島根	一	大分	一
兵庫	一	岡山	一	熊本	一
新潟	一	廣島	一	鹿兒島	一
埼玉	一	山口	一	計	三三
千葉	一	高知	一		
栃木	一	計	三		

(昭和九年十月一日現在)

[illegible]

備考 入營者擲中△印ハ現職ノ儘入營セル者ヲ示ス

三、研究資料

圖
書
及
雜
誌

(昭和九年十月一日現在)

圖	書	冊	數	種	類
和漢書	和漢書	九、一六二冊	和雜誌	五一種	
洋書	洋書	七、四〇七冊	洋雜誌	四四種	
計		一六、五六九冊	其他定期刊行物計	三〇種	
				二五種	

調查部保管資料

(昭和九年十月一日現在)

- | | |
|-------------------------|---------|
| 一、官公署銀行會社諸團體公刊資料パンフレット類 | 約五、〇〇〇部 |
| 二、同上 | 二一〇種 |
| 三、重要新聞記事書抜カード | 二〇〇種 |
| 四、銀行會社考課狀 | 三種 |
| 外内 | 外内 |
| 國 | 國 |
| 五八〇社 | 五八〇社 |

商 品 標 本 及 機 械 類 表

(昭和九年十月一日現在)

種別	數量	價格
商標本	三、八一五	九、九〇圓
機械器具	二、一四九	二五、八五〇圓